

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこの値上げ前のもどめ買い需要が発生しており、今月だけでみれば、大幅な売上増加となっている。
	やや良 くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前と比べて、来客数が増えている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客の購買動向をみると、無駄な物は購入しない慎重な様子が感じられる。例えば、カード会員であれば、特典のある日に客が集中するなど、お得感のある日に買物が集中する傾向がみられる。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・残暑でエアコンが意外に伸びたことから、前年と比べると非常に良かった。エコポイント制度が追い風となり、薄型テレビもよく売れている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・宿泊客の消費単価が低いものの、来客数そのものは安定してきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月1日からタクシー運賃が11.3%値上げしたが、利用者の乗り控えが予想以下にとどまっており、3か月前と比べると、やや良くなっている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・最近の客の会話の内容をみると、旅行や食事に関するものが多くなってきている。節約も大事だが、少しは楽しむことも必要との雰囲気があるように感じられる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・9月に入り、航空運賃の割引率が大きくなったことに加えて、全国的な残暑の影響から、避暑のため、北海道に旅行する人が増加している。
	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・最近、分譲マンションの在庫が順調に減ってきているため、一部の分譲マンションデベロッパーによるマンション用地の取得が活発化してきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・残暑が厳しかった影響で秋物の衣料品に動きがみられなかった反面、酒屋、コンビニなどの飲料品関連では前年を上回った。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ようやく秋めいてきたことから、客も秋物に目を留めるようになってきたが、まだ購入につながる状況までにはなっておらず、依然として客の慎重な行動が続いている。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・先月から気温の高い日が続き、ようやく後半にかけて気温が下がってきたものの、どこの店もまだ夏を引きずった状態であり、秋物の正価品よりも夏物のバーゲン品に頼らざるを得ない状況が続いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・たばこの値上げを控えて、客の金の使い方が変わってきている。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・売上は前年比92.3%と苦戦している。残暑の影響もあり、紳士服が前年比88.9%、婦人服が前年比85.8%と特に衣料品が苦戦しており、それが全体での売上にも影響している。ただし、買上客数は前年比96.6%と6～7月並みの水準となっている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数の伸びと比較して、買上客数の伸びが鈍っている。
百貨店（役員）		お客様の様子	・猛暑の影響で、8月中旬以降は衣料品が大苦戦している。9月下旬になり、ようやく涼しくなってきたことから、秋物・冬物の動きが少しみられるようになってきた。	
スーパー（企画担当）		お客様の様子	・来客数、客単価は今までと変わらないが、消費に強さが感じられない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（役員）	単価の動き	・9月はたばこの税率改正を控えての仮需要があったため、客単価が前年比で1～2%上昇しているが、仮需要分を除くと、この数か月それほど変わりなく推移している。仮需要分を除いた既存店ベースの数値をみると、販売量は前年比で1.5%上昇しているが、1人当たりの平均買上点数は、ここ数か月大きな変化はなく、やや弱含みで推移している。一方、商品単価は前年に対して、ほぼ100%と下げ止まったようである。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・今月は、値上がり前の駆け込み需要でたばこが前年の3倍売れた。たばこの売上の増加が全体の売上の減少分をカバーした月となっている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・エコポイント制度の効果から、テレビの販売は引き続き好調であるが、冷蔵庫・洗濯機はここ3か月不振である。パソコンも不調のまま、全体としてはほぼ横ばいの状態である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算月を迎えたが、販売量は前年と変わらなかった。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・9月後半になり、それまでの猛暑から急に冷え込んできたためか、客足がすさまじく減っている。周辺の店舗をみると、秋物を買ってしまっている様子もうかがえる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・大通公園で食をテーマとした秋の催事が開催されたことに加えて、飲食店の入る商業ビルが開業したことから、来客数が減っている。知人の繁盛店でもメインとなるような料理ではなく、パスタやピザなどの軽いメニューがよく出ると聞く。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内の団体系の旅行が引き続き好調であるほか、海外旅行も円高の効果で好調を維持している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の取扱額は、国内旅行が前年比87%、海外旅行が前年比77%となっている。前年は9月の大型連休があり、海外旅行が大きく伸びたが、今年はカレンダーの日並びが悪いため、円高が大きな追い風とはなっていない。特にヨーロッパやハワイが伸び悩んでいる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月前半は暑い日が多く、雨の日も少なかったため、タクシー利用客は前年より減っている。ただし、当市ではタクシーを減車しているため、タクシー台数が前年から約300台、4%ほど減っており、1台当たりの売上は、前年並みとなっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・電話注文が減少しているほか、来客数も前年を下回っている。客単価も低下傾向にある。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・現状を認識して、新しいことに取り組みたいと考える客はいるものの、慎重な姿勢は依然として変わらないため、景気が良い方向に進んでいる実感はあまりない。
		観光名所（役員）	来客数の動き	・今月は国内外の団体客が引き続き増加傾向にあるものの、前年のような9月の大型連休もなく、高速道路料金引下げの効果も薄れてきたことから、個人客が減少しており、前年並みの来客数の確保が難しくなっている。
		その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・春にオープンした競合スポーツ施設の方が施設・運用面等で柔軟性があり、価格も妥当か安いいため、より条件の良い方に客が流れている。前年と比較すると早めの予約が入りにくく、空きが多いため、予約時期も遅くなっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客のムードが住宅を買うというムードになっていない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・セールなどのイベント時には多少来客数が上向くが、通常営業の日の来客数は10%以上の減少となっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・先月に引き続き来街者数が前年に比べて減少している。夏の最後のイベントにおいても期待どりの来街者の増加はみられなかった。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・全国的に夏が暑すぎたため、客足が少なかった。下旬になり、一気に涼しくなっても、客の減少が続いている。ただ、中国人観光客については、今のところ、領土問題のトラブルの影響もなく、それほど変化はみられない。訪れる観光客もあまり気にしていないのか、陽気な様子である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 〔酒〕（経営者）	単価の動き	・客先の1度の購入量が少なくなっている。これまで1ケースで買っていたものが、バラで6本だけ買うようになっていたりする。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・9月に入っても残暑が続いているため、中旬までは、秋物に動きがみられず、ジャケット・コートの売上は前年の80%以下となっている。夏物についても、処分品がないなかで客の購買がみられない。下旬においては、だいぶ涼しくなったことから、ジャケット・コートの動きが前年並みに戻ったものの、9月全体を通しては非常に厳しい状況にある。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は気温が高いため、秋冬物の動きが鈍い。気温の影響が生鮮の売行きにも表れており、品目ごとの価格が安定しないため、販売量に影響が出ている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・例年にぎわうさんまの箱売り等が、不漁の影響により価格が高いため、不振である。店全体の販売量も、5月から右肩上がりだったが、ここにきて減り始めている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・9月はたばこの増税前の買いだめ等の特需があったが、気温が高いこともあり、衣料品が不振であり、苦戦が続いている。秋物が売れないまま、冬物に変わることが懸念される。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車購入時の国の支援策が終わったため、自動車の受注が極端に落ち込んできている。予想していた動きではあるが、厳しい結果となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・曜日の並びの関係で、来客数、売上とも前年比マイナス10%と大幅に減少した。ただし、前年の9月の大型連休の期間を除けば、ほぼ前年並みとなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏の観光シーズンが終わり、客層が観光客からビジネス客へと移り変わり始めているが、ビジネス需要の接待が減少している。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊予約状況を見ると、先月に比べて、販売量が前年比で8%ほど下落している。夏場の観光シーズンの動向に期待したものの、残念ながら宿泊客は上向きになっておらず、特に平日の動きが悪い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・9月前半は売上も良く、3か月前と比べても約7～8%の伸びがみられ、前年との比較でも約3%の伸びとなっていた。しかしながら、3連休が終わった途端、急激に売上が下がっており、月全体の売上は前年を下回った。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・あまりに景気が悪すぎて、何と答えれば良いのか分からない。
悪くなっている	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の早期予算消化の影響もあり、土日のイベント来場客が激減しており、受注量が半減した。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （役員）	受注量や販売量の動き	・設備案件は少ないが、消耗資材の販売量は着実に伸びてきている。
	変わらない	食料品製造業 （団体役員）	それ以外	・加工原料の漁獲量の減少や原料の高騰、商品への価格転嫁交渉など、経営環境に厳しさが増すなか、消費者の節約志向の強まりから、業界での出荷額が10%近く減少している。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高や猛暑の影響による消費マインドの低下がみられたが、9月後半からは持ち直してきている。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・自社の仕事量は増えてきているが、取引先などは相変わらず、ひまそうにしている。
		金属製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量及び販売量が伸び悩んでいる。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙業や飲料・医薬品の輸送量は例年並みで落ち込みはみられない。生乳の道外輸送も順調である。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量及び販売量は3か月前と比較して引き続き低調に推移しており、景況感としては、やや悪い状況が継続している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共事業が大幅に減少しており、土木建設業界は極めて厳しい。新車・家電販売、リフォーム業界は政策支援効果で堅調に推移している。猛暑の影響で夏物商品は好調な売行きとなっている一方で、海水温が高いため、さんまなどの漁獲量が減少しており、特に道東地域で大きな影響を受けている。観光関連は、中国人観光客のほか、国内観光客も増加しており、持ち直してきている。	
		司法書士	取引先の様子	・6月以降、不動産取引、建物の建築着工数ともに減少している。	
		司法書士	取引先の様子	・依然として景気は不透明な状態であり、不動産への投資や新規の購買意欲がみられず、取引は停滞気味である。	
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月以降動き出しそうな案件が出始めている。ただ、実際に事業が確定してみないことには何とも言えず、不安な面がある。	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・畑作の収穫が不調であり、農業関連の需要が減少している。	
やや悪くなっている		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新年度予算による公共工事の発注がほぼ終了したが、民間も含めた新規着工予定の工事は極端に少なく、見積物件も全くない状況が続いている。	
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上を前年比でみると、前年はプラスであったが、今年はマイナスになっている。	
悪くなっている		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・本来であれば新物の農産物が収穫され、販売量が最も増えてくる時期であるが、今年は3か月前よりも販売量が減っている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・公共事業関連ではない民間系の建設関連工事に伴う求人の増加が目立ってきている。また、家電量販店の販売員として、派遣スタッフの募集が増加しているほか、好天に恵まれたことで、8月に引き続きスーパーからの募集も続いている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は15.2%増加し、7か月連続で前年を上回った。月間有効求人数は18.1%増加し、7か月連続で前年を上回った。	
		職業安定所（職員）	それ以外	・8月の管内有効求人倍率が0.39倍となり、前月と比較して0.3ポイント増加した。	
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・季節型の臨時派遣アルバイトの求人依頼がある一方で、正社員の求人は横ばいであり、企業業績の先行きに対して慎重な姿勢がうかがえる。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・紹介・派遣業やスーパー、ファストフードなどの求人が回復してきたが、建設業や旅客運送、介護・福祉関係の求人が減っており、全体としては変わらない。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今年に入ってから募集広告の売上が前年を上回っている。今月も売上は前年比104%と、その勢いが続いており、前々年並みの売上に近づいてきている。派遣など、負け組みの業種が固定化されてきているものの、前年まで出稿が少なかった、医療系、流通・小売系、加工製造卸系の業種が大きく実績を伸ばしている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の動きが小さく、求人倍率が低い水準で推移している。	
			職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・8月の新規求人数は前年比で22.4%の増加となったものの、相変わらずパート契約社員の求人が増えている。一方、新規求職者数は前年比で0.3%の減少となった。この結果、月間有効求人倍率は0.46倍となり、前年の0.36倍を0.1ポイント上回った。
			人材派遣会社（社員）	それ以外	・雇用環境の悪化を踏まえ、行政官庁からの雇用対策に関する委託事業が増えてきている。更に、行政官庁からは、雇用回復に向けた施策のヒントとなるような案はないかとの相談も増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔大学〕 (就職担当)	採用者数の動き	・厳選採用が続くなか、未内定者が就職活動を積極的に実施する一方で、企業側の採用者数の伸びが鈍化している。9月に実施された合同企業説明会が相当数あり、学生に紹介するには十分な出展企業数であったが、企業においては、採用数が明示されつつも、求める人材像に高い基準を追求しており、イベント等を介した効果は厳しいものであった。
	悪く なっている	-	-	-

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・40代以上の客を中心に、秋物が好調に動いている。例年より気温が高いなかで、変化を求めている消費者の動向が表れている。
	やや良く なっている	百貨店(売場担 当)	それ以外	・7～8月に好調だったセールの勢いが9月の前半まで続いたことに加え、後半は一時的に気温が下がったことで客の秋物への関心が一気に高まり、購買につながっている。
		スーパー(経営 者)	お客様の様子	・9月前半まで猛暑が続いたことによる特需に加え、10月から値上げするたばこの先食い需要が見られる。
		スーパー(店 長)	単価の動き	・販促策を強化していることもあり、来客数は前期比99.8%、客単価は同100.3%、買上点数は同99.8%、1品単価は同100.4%で、売上は前期実績をほぼクリアしている。
		スーパー(営業 担当)	販売量の動き	・季節の変わり目で食味が変わってきたため、生鮮食品を中心に動きが良くなってきている。また、今年は米が豊作ということもあり、産地周辺の店舗で商品の動きが良くなってきている。
		コンビニ(経営 者)	販売量の動き	・10月からの値上げを前に、たばこの売上が伸びている。
		コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・10月のたばこ増税を控え、たばこのまとめ買い需要が高まっている。
		コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・たばこ増税前の駆け込み需要が大きくなっている。
		衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・気温の低下とともに来客数は急激に回復してきているが、売上は前年を若干下回っている。
		旅行代理店(従 業員)	販売量の動き	・海外旅行商品の販売量が伸びている。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・半導体系の製造業に活気が出てきている。
		その他サービス 〔自動車整備 業〕(経営者)	販売量の動き	・夏の暑さが9月まで長引いたため、販売量の伸びが継続している。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・少額資金の若年層の顧客に動きが出てきている。
	変わらない	商店街(代表 者)	販売量の動き	・残暑の影響でなかなか秋物商戦に入れず、衣料品関係の店が苦戦している。下旬になりようやく秋らしくなったが、前半の売上の落ち込みをカバーできずにいる。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・9月前半まで猛暑が続いたことから秋物衣料品等の動きが鈍く、客の出足も非常に悪くなっている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・5月以降、来客数の減少が続いている。
		一般小売店〔カ メラ〕(店長)	販売量の動き	・販売量、売上共に横ばいで推移しているものの、消費者の低価格志向が続いており、高額商品の動きが鈍い。
		百貨店(営業担 当)	販売量の動き	・売上高は前年を下回っているが、ここ数か月大きく落ち込むこともなく底打ちの状況である。
		百貨店(販促担 当)	販売量の動き	・ハウスカードの割引や催事、利用機会に対する商品提案への反応は良いものの、それが定価商品の売上減少の歯止めにはなっていない。
スーパー(経営 者)		単価の動き	・来客数は増加しているが、他店との競争で客単価が低下しており、利益は変わらない。	
スーパー(店 長)	単価の動き	・暑さのせいで一部の部門や商品の売上だけが伸びており、それ以外は消費が低迷している。加えて、暑さが一段落してからは、伸びていた部門でもブレーキがかかったかのような状況である。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	単価の動き	・前月同様、乗客数は減少していないものの、買上単価が伸び悩んでいる。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・野菜の高騰とたばこのまとめ買いが下支えとなり、9月の平均単価は既存店で前年並みとなっているが、そのほかの商品の平均単価と販売動向に大きな違いは出ていない。また、月前半までは猛暑が続いたこともあり、売上は前年を上回ったが、一時的な現象である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・10月からのたばこの値上げを前に、たばこをまとめ買いする客が見られる。しかし、来客数については、依然として厳しい状態が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温の高い状態が続いたため、涼を求める客が増加している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は2～3か月前より落ちてはいるが、夏場は天候の後押しもあり、前年と比べ非常に良い状況にある。また、増税前の買い置き需要によりたばこの売上が増加しているが、特殊要因であるため、景気が良いという状況ではない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は猛暑の影響で9月中旬まで増加傾向にあったが、それ以降は急激な気温の低下もあって一気に減少している。また、たばこの値上げ前の買いだめ需要もあって、見かけ上の客単価は上昇し、売上も増加している。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・10月になろうとしているのに、秋物の注文がない状況である。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・残暑により夏物の消化が進んだ一方で、秋物の立ち上がりは半月ほどずれ込むなど、プラスマイナスの両面があり、結果としてはあまり変わっていない。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・気温が低下したため秋物の動きに期待したが、子供用衣料はサイズの問題で必要に応じて購買があるものの、大人用はダンス在庫で間に合わせる傾向にある。また10月からのたばこの値上げなどもあり、消費を抑えているとの声も客から聞こえてくる。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・リサイクルポイント対象商品は好調に推移しているが、商品単価が下がっているため、売上は低迷気味となっている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・単価は、月を追うごとに低下している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新築住宅事情や地価下落など経済環境にとって悪いデータが公表されているが、売上は何とか前年並みで推移している。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、購入単価共に前年度とさほど変わらず、依然として厳しい状況が続いている。
		その他専門店【パソコン】（経営者）	競争相手の様子	・受注や販売数が幾分出てきたものの、内容的には利益がかなり薄いという話を聞く。
		その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・ビールや飲料水の販売量は、気温が涼しくなり始めた9月中旬から落ち着きはじめ、徐々に減少してきている。一方、たばこ増税前の予約販売の影響で、たばこの販売量が月末になるにつれて右肩上がりとなっている。
		その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・例年にないほどの厳しい残暑により、消費も減退している。また、エコカー購入補助金の終了などの報道が節約志向を助長している。
		その他専門店【酒】（営業担当）	来客数の動き	・5月以降の悪化傾向は、今月に入り少し落ち着いてきたものの、夏場の猛暑が景況に影響し、飲食店が非常に落ち込んでいる。全体では極端に単価の安い商品にシフトしており、採算確保に苦労している。
		その他専門店【白衣・ユニフォーム】（営業担当）	販売量の動き	・注文数が減っているなか、注文があっても多数の業者間での取り合い、値段の叩き合いになり、受注しても利益が上がらないという状況が続いている。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（営業担当）	販売量の動き	・猛暑の終わりとともにガソリン需要は減少しており、販売単価を下げて売ろうとする動きが出てきている。そのため、燃料油のマージンが低下し収支が悪化しており、不採算店舗を閉鎖する動きも始めている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	販売量の動き	・給油量を限定したり、1,000円分、2,000円分だけ購入したりする客が増えているため、台数は多いが全体的な販売量は減少している。
		高級レストラン (支配人)	競争相手の様子	・8月に外資系ホテルがオープンし、新しい人の流れができています。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・休日が多い割にはレストランの来客数も増えず、依然として厳しい状況が続いている。
		一般レストラン (スタッフ)	単価の動き	・客は価格に敏感で、安くすると来てくれるが、他店が安くするとそちらに流れてしまう状況にある。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・夏と秋の観光シーズンの狭間であるため、大型連休中の2日間以外は、土曜でも空室がある。また、暑い夏の影響で温泉利用の旅行マインドは低くなっている。加えて、団体客が依然として少なく家族連れが主流のため、館内消費は伸びず、入込、売上共に前年比で約10%減少している。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・前年の大型連休の反動減を避けるため、新たな宿泊プランを打ち出したものの、思ったほど効果は出てない。一方、一般の宴会や会合は前年並みである。また、プライダルは長期にわたることから客の動き次第でどちらに転んでもおかしくないため、ある意味落ち着いた状態である。
		旅行代理店 (店長)	販売量の動き	・販売額は国内旅行が前年比で107%、海外旅行は同169%と、共に好調な結果となっている。国内旅行では、団体旅行が同118%と伸びた反面、個人旅行では同73%となっており、前年の大型連休の反動が出ている。海外旅行は円高効果と商品価格の見直し効果により、大きく販売が伸びている。
		タクシー運転手	単価の動き	・客は料金の安い車を選んで乗っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・1日20件ほど客を乗せているが、チケットの利用者が全くいない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・初期費用のかかるものの購入には、いまだ消極的な姿勢が見られる。
		テーマパーク (職員)	販売量の動き	・猛暑の影響もあり、水着等の一部衣料や清涼飲料水、アイスクリーム等の販売量は伸びたが、それ以外は引き続き低調となっている。
		観光名所 (職員)	来客数の動き	・大型連休は前年より短く、来客数が極端に落ち込んでいる。
		遊園地 (経営者)	来客数の動き	・今年の大型連休は短いので、来客数の減少は織り込み済みであったが、夏に天気の良いことや秋雨などの影響もあり、一昨年比で5%ほど下回る見込みとなっている。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・前年比1割減の状態が続いている。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・9月は婚礼シーズンであるが、景気悪化の影響により結婚式が簡素化しており、挙式をしない人も見られる。
		設計事務所 (経営者)	お客様の様子	・民間、行政共に新規工事案件が出てきていない。住宅の新築はあるが、ここ数年では最も少なくなっている。
	やや悪くなっている	商店街 (代表者)	単価の動き	・250円の牛丼や100円のハンバーガーといったものが売れない厳しい状況が続いている。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・お盆以降、消費が急激に落ち込んでいる。さらに、季節感がないまま9月を迎え、各店が販売促進策を打ち出せない状況となっている。
		一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・必要な物しか購入しない傾向が顕著になっており、来客数、販売量共に前年同月比で90%となっている。
		一般小売店 [医薬品] (経営者)	来客数の動き	・来客数は過去最悪を更に割り込んでいる。客は包装の小さいもの、安いものを選択する傾向にあり、単価の高い客層の来店回数は減少している。
		百貨店 (売場主任)	来客数の動き	・上旬までは猛暑だったが、中旬以降は寒いくらいにまで気温が下がったため、初秋物から一気に季節が飛んで、厚手のアウターに動きが出ている。来客数は非常に少ないが、客の来店があったところではアウターなどのまとめ買いも見られる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・残暑が続いた上旬やまとまった雨が降った中旬は、高齢者層の客の来店が少なく、売上も低調に推移した。気温が平年並みになった下旬からは秋物衣料も動き出し、数値目標を上回る日もあるものの、上旬中旬をカバーするには至っていない。
		百貨店（広報担当）	販売量の動き	・残暑の影響もあり、来客数が少なく、秋物衣料の動きが鈍くなっている。九月下旬からようやく秋めいてきて売上が伸びているものの、月全体をカバーできるところまでは至っていない。
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・厳しい残暑の影響で、秋物衣料が大苦戦している。また、食料品、日配品もこれまで以上に価格設定が厳しくなっている。
		百貨店（経営者）	それ以外	・9月上旬まで続いた暑さにより、秋物衣料品の動きは大変鈍く、単価も上がらないことから、全体の売上は前年を下回っている。
		百貨店（経営者）	それ以外	・9月前半は非常に気温が高く、本来売れなくてはならないものが苦戦している。中旬以降は、気温が一気に下がり、需要は少しずつ伸びてきているものの、客単価はなかなか上がらず、売上は総体的に苦戦している。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・今年に入り2次商圏内に競合店が3件出店し、オーバーストアの状態にあるため、客数、売上共に影響が出ており、事業所の景気も厳しい状況が続いている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・たばこ増税の影響で駆け込み需要が増え、客単価は増加しているものの、暑い夏の終わりとともに来客数は前年比94%と減少している。加えて、近隣のホテルが閉店したことにより朝の来客数が減少している。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・野菜の相場は高いものの、105円を中心とした野菜が好調で、日配品である生活必需品も低単価商品を中心に好調となっている。加えて、たばこの値上げを前にした需要があり、売上は前年比105%となっている。ただし、たばこを除く売上は前年割れの状況である（たばこのみの売上は同130%、来客数は同100%、客単価は同105%だが、たばこを除く客単価は同97%）。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・猛暑の影響により、秋物の立ち上がりが非常に遅れており、特にビジネスマンの来店が少なくなっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・天候が不安定で気温の寒暖が激しいため、季節商材の動きがとまり、商品が思うように動いていない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・リーマンショック以降、新車販売を下支えしていたエコカー購入補助金が終了したことに加え、車検や整備の顧客獲得競争が激しくなり、厳しい状況である。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・エコカー購入補助金の終了直後ということもあり、平日、イベント共に客足は鈍くなっている。各社では集客に躍起になっているが目立った効果は見られない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金が終了し、販売量の伸びが止まっている。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	お客様の様子	・残暑の影響が大きく、秋物の動きが非常に悪くなっている。冬物まで我慢する傾向がつかえる。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・同業者からは、売上が一層落ち込み、仕入れ量も減っているという話を聞く。当店も同様であり、何とか維持している状況である。
		一般レストラン（支配人）	単価の動き	・来客数は前年並みで推移しているものの、客単価が15%減となっており、消費者の財布のひもが固い傾向は依然として続いている。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・デフレ傾向がますます強くなっている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・高単価な個人客の増加により、総宿泊単価は前年比で増加している。ただし、従前主力としてきたバス旅行に動きがない。また、募集型団体旅行は競合により単価の値下げ攻勢が強く、総売上高は減少が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・当地で人の集まる大会が開催されたことに伴い、宿泊部門に動きが見られると同時に、暑かったこともあり、ランチ、夕食共にホテルを利用する客が多く、レストラン、料飲部門をけん引している。一方、法人部門では暑気払いや会合等の利用が非常に厳しくなっており、全体的には前年比で10ポイント近く下げている。これは単純に来客数の減少によるものである。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・18～20日の3連休は売上が大きく伸びたものの、その後はぱたっととまっている。消費者の防衛意識は高く、基本的に余計な支出はしない傾向が見られる。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・レストラン部門は地元大手スーパーとのタイアップ企画、ランチサービス券の回収が好調となっているものの、宿泊部門はネット販売の低価格競争で売上が伸びず、主力の一般宴会も前年を若干上回る程度で、売上予算には届いていない。
		都市型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・競合他社の開店の影響で来客数が減っており、利用見込み客の意見も以前より他社との比較等が多くなっている。
	悪く なっている	一般小売店〔スポーツ用品〕 (経営者)	販売量の動き	・前年比90%くらいを想定して資金繰りをしているが、それを下回る販売量となっている。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	来客数の動き	・秋分の日を境に急に冷え込んだため、繁華街を訪れる客が激減しており、当店の来客数も前年比20%の減少となっている。
		一般小売店〔雑貨〕 (企画担当)	来客数の動き	・厳しい残暑が続いたことが個人消費に大きな影響を与えている。
		スーパー (経営者)	単価の動き	・円高が続いていることに加え、農産物等については天候の問題もあり、価格が低迷している。農家等の収入は激減しているので購買が伴わず、厳しい状況である。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・エコカー購入補助金の駆け込み登録は予想以上にあり、月初から前年比約2倍で推移した。9月7日の制度終了後は、日を追うごとに伸び率が下がっている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・9月7日にエコカー購入補助金が終了して以降、新車の注文がぱったりと途絶えている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・エコカー補助金終了後、新規来客数が減っているのに加え、購入を急がなくなっているため、週を追うごとに受注ペースが落ちてきている。
		乗用車販売店 (経営者)	それ以外	・エコカー購入補助金の終了により、客の購買意欲が減退し、購入の意思決定が促進されないため、市場が動かなくなっている。
		自動車備品販売店 (経営者)	お客様の様子	・受注量の減少に加え、客の入庫数も例年以上に減少している。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・閑散期に差し掛かっていることに加え、最近では仏壇もより小さく、低価格の商品が売れる傾向にあるため、売上が減少している。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・理由はわからないが、お盆明けあたりから景気が急速に冷え込んでいる。また、客の様子も良くなく、良くなる要素もみられない。数字上も非常に悪く、悪かった前年より更に悪化している。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・来客数、売上共に大変厳しく、特に売上はここ7年で最低となっている。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・気象の影響で今期の米の値段が暴落し、農業従事者が多い当地域にとっては痛手となっている。果樹を兼業している農家も多いが、そちらも低価格での取引となっていることから、その影響はサービス業全般に及んでいる。
		観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・売上は平成20～22年と前年比20%台の減少が続いており、宿泊を伴う観光の落ち込みに拍車がかかっている。また、ここ数か月は落ち込み幅も拡大している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・前年度を大きく下回るような状態が続いており、特に午前0～5時の間は1～2件の客しかない状態が続いている。
企業 動向	良く なっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・9月に入っても猛暑が続き、果物の主力である桃や梨の品質が非常に良くなっている。特に梨の販売価格が前年比で3割程度増加しているなど、農協出荷の販売価格も近年見られなかったほど良い状況が続いている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・営業所間で収入のバラつきが見られるものの、全社会的に営業収入は増えている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・下期予算枠の投資先は順調に確保できている。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・工事業者やベンダー、商談、納品業者などの出入りが増えていることから、景気が良くなっていることがはっきりと感じとれる。工事業者の車両ナンバーを見ても、関東や関西のものが多く、市内に宿泊しながら作業しているため、街の景気回復の面でもプラスとなっている。
変わらない		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の値動きから若干値下げ競争に入っているものの、採算は取れており、まずまずの動きである。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月、売上は前年同月と同じような水準で推移している。
		土石製品製造販売（従業員）	受注量や販売量の動き	・海外の支店でも円高が大きく影響し、景気回復を見込んだ発注工事も大幅に減っている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・当社の製品は、景気を大筋判断できる製品に使われている標準品であり、価格動向で景気の流れを読むことができる。現状の価格動向から、景気も横ばいの状況が続いているといえる。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今年度に入ってから受注量は、前年比減の状態が続いている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・市内中心部にある商業ビルが取り壊しになったり、空きビルになったりするなど、空洞化が進んでいる。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・景気回復の起爆剤になるようなものがなく、低迷が続いている。
		公認会計士	取引先の様子	・取引先の決算状況や月次状況を見ると、相変わらず赤字の会社が多く、改善傾向が見られない。
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業種によって景気の状態に大きな差がある。良い業種と悪い業種を足して2で割れば、3か月前の状態と変わりがないような状況である。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・印刷需要の低迷が続いており、業種にもよるが総量としてかなり少ないということを取引先から聞いている。
やや悪くなっている		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・食料品製造販売とレストラン経営の当社では、9月の大型連休が短かったこともあり販売量が大幅に減少し、前年と比較しても期待はずれとなっている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品については、やや減少傾向にあることに加えて、為替水準が採算ラインを割り込んできている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・仕事量が思ったほど増えていない企業が多く見られる。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・人口が減少し景気も悪いため、高額な新築は敬遠され、受注はリフォーム工事のみの状況である。
		建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・コスト競争により、以前から厳しい状況が続いていたが、ここに来て入札結果等から更に厳しくなっている。
		広告業協会（役員）	それ以外	・地元での国際会議開催のため、遊技場関係のテレビCM出稿を見合わせていたこともあり、民放各局の業績は若干下がっている。また、地方においては宗教団体のテレビCM出稿があったようだが単発で終了している。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込チラシは前月を下回ることが多くなっており、折込依頼が全くない日もある。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・東北地方は輸出関連の下請企業が多く、円高で大きな影響を受けている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・高額商品、一般商品共に出荷が伸びていない。特に飲食店向けの出荷が、期待を大きく外れており、低価格志向のあおりで、より安い大手のバック酒等にメニュー変えする傾向が顕著になっている。
悪くなっている		農林水産業（従業者）	取引先の様子	・農協から支払われる米の概算金が大幅に低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年は大型連休が長かったため観光客も多かったが、今年は飛び石連休で売上は2割近く落ちている。
雇用 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が毎月確実に伸びてきている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・販売、サービス、外食産業の派遣や契約社員の雇用が増えてきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は引き続き前年同月比で増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比で増加幅が大きくなってきている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・休業などの雇用調整を実施する企業数、実施規模等が減少している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者は前年比増減はあるものの、有効求職者は8か月連続で減少している。一方、新規求人は前年比7か月連続で増加しており、有効求人倍率はわずかながら上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣を取り巻く環境の問題もあってか、求人数が低迷している。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・求人数が増えているものの、地元企業ではなく、支店企業からのみとなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数に目立った増加は見られない。9月は半期末の企業が多く、通例では退職補充が増える時期だが、この不況下では退職者も少ない様子で、欠員補充の求人も少ない。一方、一部のコールセンターでは採用意欲がおう盛となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数は8～9月を底に多少上向いてきているものの、大手流通など地元企業以外の求人が多く、当地域においては、落ち込んだ状態が続いている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・一部の製造業では、国の緊急雇用制度を活用して雇用を積極的に進めているが、極めて限定的である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・この夏の猛暑の影響で、秋物衣料などの消費意欲が低下しており、小売店、専門店では売上が低迷したままで推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で2か月ぶりにやや増加し、月間有効求人数は37か月ぶりに増加に転じている。また、有効求人倍率はここ数か月、わずかに上昇傾向が続いている。
職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は増加傾向にあるが、求人倍率の上昇は小幅にとどまっている。		
職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・企業の話聞いても、状況が回復している様子は見られない。		
職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は増加傾向にあるが、期間の短い臨時求人が増加しており、景気が上向いているとはいえない。		
やや悪く なっている	アウトソーシング企業（社員）	周辺企業の様子	・他業種の参入により満足な仕事もできないところが価格を下げている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・2～3か月前は県内企業の広告活動が前年をやや上回る状況であったが、8～9月は下回っている。	
悪く なっている				

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・夏のエアコンに続き、デジタルテレビの売上も非常に上がってきている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこ特需となっており、売上も前年比130%と予想通りの動きをしている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・新規展示物の完成を受けて、猛暑にもかかわらず、夏休み中はほぼ前年の倍に近い来園者を迎えることが出来た。
	やや良く なっている	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・改装効果もあると思うが、先月、今月と衣料品が大きく前年をクリアしている。食品と住まいの商品等についても前年を越えてきているので、若干良い。
コンビニ（経営者）		販売量の動き	・10月からたばこの値上げがあるので、値上げ前の需要が大分大きかった。ただし、一般商品は若干、停滞しているような感じがする。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこの増税の関係で、先月よりも販売量が大幅に増えている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・残暑のおかげで、エコポイント対象商品のエアコンが予約注文なども含め、よく売れた。また、アナログ放送停波もあり、テレビも順調に小型の物が動いている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・今までより売上が増加している。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・猛暑によるスタミナメニューの注文も一段落して、通常メニューになり、客単価が若干、下回っている。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・宿泊人数は好調であった。この夏の猛暑により、避暑目的の客が増えたことも理由の1つである。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・ランドセルの予約注文も取っているが、9月までの状況では前年比約2分の1まで落ち込んでいる。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・彼岸のころまで続いていた暑さに対応できず、客は食欲も出ないようで、皆簡単な食事で済ませている。弁当屋なども値下げしているが、ぱっとしない。
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・県外資本の出店により、県内各社の低価格志向の動きが更に過激になっている。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数と客単価は前年並みで、ここ2～3か月は下落に歯止めが掛かってはいるが、低い水準で停滞している。
		スーパー（経営企画担当）	販売量の動き	・新たな競合店が出店した影響を受けたが、たばこの売上が前年の4倍ほどあったのでマイナス分はカバーできている。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・猛烈な残暑は功罪両面あり、食品では飲料、氷菓などが好調だが、夏物は停滞し、本来中旬以降に売れるべき秋物も苦戦している。衣料品は肌着が相変わらず好調で120%の動きがあるが、パジャマが80%とダウンし、長そでTシャツやジャケット類も80～90%台と動きが鈍い。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・来月からたばこの値上げがあるので売上は大変伸びているが、利益率が少ないので、あまり変わらない。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・9月に幾分なりとも朝晩涼しくなるかと期待していたが、猛暑が続いたため、夏物も秋物も動かない。客は本当の意味で様子見をしており、かなりしんどい状況に変化がない。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・会社関係では中間決算時期であり、無駄な物は買わない状況である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・毎月のことだが、新車の販売が伸び悩んでおり、高額の新車がほとんど出ない。しかし、中古車でそこそこ安価なものに関してはある程度動いており、先々月から販売量にさほど大きな変動はない。
		住関連専門店（開発業務責任者）	単価の動き	・客数と買上点数で減少が続いている。また、暑さが継続したために、秋物の動向が鈍く、売上の前年割れ部門が増加している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・猛暑の影響で、高原の観光地は大変な入込だったが、かえって街中の観光地は落ち込んでしまい、飲食業には大きな影響が出ている。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、宴席予約状況が横ばいとなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・催し物に加え、リピート客が無難に入ったことが最大要因となり、宿泊関係は良かったが、宴会、レストラン部門は落ち込む状況にある。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・顧客の会社の経営状態が悪く、社員旅行ができない会社が増えている。秋の団体旅行の受注率は4～5年前の50%程度しかない。
旅行代理店（副支店長）	来客数の動き	・9月中旬ごろまでの猛暑のためか出足が鈍く、集客状況が良くない。円高影響もあり、景気の回復には至らない。		
タクシー運転手	お客様の様子	・猛暑、長雨といった気候条件による良好な影響を除くと、夜間の飲食関係における客は減少している。		
タクシー（経営者）	お客様の様子	・残暑のせいか、昼間の動きが少し良く、前年同月比4%の増収であったが、残暑が終わればこの先不安である。		
通信会社（局長）	販売量の動き	・9月も猛暑続きで、販売員も疲弊気味のため、直接販売では苦戦したが、店舗販売ではやや善戦している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		遊園地（職員）	来客数の動き	・前年は9月の大型連休の集客が好調であったが、本年は低調であった。しかし、7月にオープンした新規施設が好評であり、関連商品の売上が好調に推移しているため、消費単価については前年を上回っている。魅力的な商品の追加を継続的に行うことで、客の消費意欲を刺激している。		
		ゴルフ場（支配人）	それ以外	・周辺コースが集客のために更にプレー料金を値下げしたので、それに対抗するため単価が落ち込んだ。また、悪天候で芝が枯れ、その張替えのための費用がかさんでくる。		
		競輪場（職員）	単価の動き	・入場者数はそこそこで変化はみられないが、1人当たりの単価が徐々に下降している。		
		美容室（経営者）	それ以外	・9月前半の猛暑の影響で、来客数が減っている状況である。通信制の美容専門学校の入学生は前年より2割増加しており、入学生の少ない通信制に流れる傾向になっている。昼間制の推薦願書が始まるが、今一步盛り上がりには欠ける。		
		その他サービス [立体駐車場] (従業員)	お客様の様子	・現在は来客数、単価共に若干の上向きに転じているが、サービス券を利用する客が非常に多い上、客は出庫時間ぎりぎりにあわせて賢く利用しているので、それを含めて考えると横ばいである。		
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・新規の依頼はほとんどなく、計画をしても景気の様子を見ている客もいて、変わらず仕事量が少ない状況である。		
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・しばらく前から、個人住宅の建築に対する客からの相談や照会は皆無に等しく、住宅以外の物件も動きは多少あるが数が少ない。今月も相変わらずである。		
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・決算時期ということもあり、月末の見積依頼件数が多かった。3か月前と比較して、社内も非常に忙しかった。		
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・夏場に増加した別荘見学者が購入に結び付いていない。猛暑により、一時的に来客数は増加したものの、売上高は変わらず低調である。		
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・販売量、来客数の落ち込みが目立つようになってきている。		
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・物件の引き合いがなく悪い状況が続いているが、中古住宅で1千万がらみの物件は問い合わせが少し増えてきている。店舗等は相変わらず閉店や廃業が目立って、シャッターがどんどん増えている。		
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量、金額はずっと横ばいの状態が継続している。		
		やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・昨年の大型シルバーウィークと比べると、今年のお彼岸連休の落ち込みは激し過ぎる。
				商店街（代表者）	販売量の動き	・平日の出入は少ないので、せめて土日祭日に期待するのだが、これも期待に反し少ない上に、財布のひもはさらに固い。
商店街（代表者）	来客数の動き			・前年同月比の来客数は80%で、客単価も減っている。		
一般小売店 [家電]（経営者）	お客様の様子			・猛暑の夏が過ぎ、商品の動きも鈍くなっている。急に寒くなってきたので暖房の話もチラホラとあるが、大物商品の成約には至らない。相変わらず消費動向は慎重で、不必要な物の購入は控え気味である。		
一般小売店 [青果]（店長）	販売量の動き			・本当に必要なものだけを買うという動きで、客単価はかなり低い。		
百貨店（総務担当）	お客様の様子			・チラシの食品など超目玉品の売上は前年比115%と良いが、粗利益が取れず、苦戦している。衣料品は秋物の動きが全く無く、売上の確保ができず、夏物もない。今月は、ギフト品の好調とお彼岸の引き物が増加したおかげで、売上全体は目標を達成出来たが、粗利益額は前年並みになりそうである。		
百貨店（営業担当）	来客数の動き			・この夏の猛暑の影響が非常に大きく、9月中旬まで残暑が続いたために紳士部門では、そでものの動きが非常に悪くなっている。		
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き			・今月中旬ごろまでの残暑の影響により、アパレルを中心とした秋物の動きが極めて悪い。回復基調にあった婦人服についても、今月は前年を大きく下回っている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・残暑の影響で秋物衣料が極度の不振となっている。店全体で非常に大きな割合を占めているので、他の商品群ではフォローしきれないほどである。対して食品の売上はほぼ横ばいとなっており、生活に直結する物以外は依然厳しい状態が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・輸出向け電気関係製造業界の不振が、現在の当店の客数不足、単価不足の根底にも影響している。決まった人口の中での取り合いなので、このまま行くと、また安売り合戦の様相を呈するのは明白である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこのまとめ買いで今月だけは前年比を10%以上上回っているが、前月比では大きく下回っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客単価は前年と比較して20～30円下がっており、買上点数も1点当たりの減少が見受けられる。また近くの店の影響が強く、状況としては良いとはいえない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・現在の経済は厳しい状況である。特定の施策が終了した時点で大きく下降してきている。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・エコカー補助金が終わることで各メーカーはそれに変わる販売施策を打ち出しているが、エコカー補助金ほど効果が見えない。
		高級レストラン（店長）	販売量の動き	・ここ1年、売上が少しずつ前年実績を下回っており、まだ下げ止まる見込みはない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・客が食事を控えているのか、常連客の来店頻度が減ってきている。また、ファミリー層やサラリーマン層など、すべての客層で来客数が減っている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・通常は日によって客の動向に差があるが、現在は平日、土日とも差がない。それだけ土日の客が減っているということである。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・人の流れが無くなった。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・前年まであった大きな大会の参加者等の宿泊がなく、学校関係のスポーツ団体の全体的な縮小や中止が目立っている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・円高と日銀介入による、為替不安定な状況の影響を受けている。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・秋の行楽シーズンを迎えたが、企業からの発注が厳しい。また、今日の不安な情勢の中、個人需要も鈍化している。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・例年、官公庁や外郭団体から下半期の受注が殺到するが、今年に限ってはその動きが全くない。一般の受注もかなり低下している。
		通信会社（販売担当）	来客数の動き	・夏休みが終わり支出を抑えている様子で、来客数、販売数共に前年比で20%減少である。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・夏休み等で出費が重なったせいか、来店自体も減り、数字に影響が出ている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数が前年より減っている。
		その他レジャー施設 [アミューズメント]（職員）	それ以外	・ゲームセンターの中に紙幣を小銭に変えるための両替機が6台あるが、5千円札や1万円札の使用量が減ってきており、千円札から両替する客が非常に増えている。また、週末には両替機のお金が足りなくなるので、予備金を用意するのだが、こここのところ、予備金の余る状況が目立つ。
		その他サービス [フィットネスクラブ]（マネージャー）	単価の動き	・価格の低い会員にしか反応がない。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・客の動向を見ていると、先行き不安から、全体的にお金を使わないように節約している印象である。
	悪くなっている	一般小売店 [衣料]（経営者）	販売量の動き	・9月中に行われる運動会に期待をしていたが、天候が暑いまま変化しなかったことに影響を受け、販売量が悪く、すべてのものが動かなくなっている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暑い夏が続き、秋物の販売量が極端に少なくなっている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・9月の中では、過去20年の中で最も悪い売上高と来客数である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・エコカー補助金が終わった途端、販売量が本当にぐんと減っている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・例年よりも40%のダウンと、開店して30年以來、初めての売上になってしまった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・当地はちょうど農繁期で忙しい時期で、街中に入が出てくるのが少ない。また、大きな大会もなく、コンベンション関係もないので、宿泊客も少なく、非常に閑散としている。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前と比べると仕事が少し出てきて、多少は楽になってきた。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は、半期の締めということもあり、販売量は増加している。	
	変わらない		食料品製造業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・残暑が厳しいこともあり、秋商材よりも夏商材のほうが売れている。
			食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・今年は例年になく、猛暑が続いた影響でワインの消費は低調であった。
			窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年の季節商品受注が早まり、一時的には仕事量もあるものの、Webも含めた店頭販売は相変わらず低迷している。
			金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・このところ自動車の新興国への生産移動、空洞化が加速する中で、ここにきて取引先でも特殊車両の分野で現地生産への移動が始まるようであり、大変心配している。
			一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客先によって好不調がまちまちであり、また、下期に入るにあたり様子見の客も増えており、全体の仕事量としては変わっていない。
			輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・先月までは良い会社と悪い会社が半々であったが、良い会社のほうでは若干、販売受注量が落ちてきたようである。悪い会社は相変わらず悪い。
			輸送業（営業担当）	取引先の様子	・今年の夏は残暑により本来の季節商材のずれが生じ、季節家電、衣類等の物量の動きが少し落ち込んでいる。しかし、住宅エコポイントの住建材等の物量は多少動きが良く、全体的には前年をやや下回っている状況である。
			通信業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・得意先も厳しい状況で、この数か月新規発注がほとんど無い。明らかに景気は低迷している。
			金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・観光地においては、昨年新型インフルエンザの影響から脱し、一昨年の状況にほぼ戻り、今年の夏から比較的好調に推移している。
			金融業（総務担当）	取引先の様子	・たばこの駆け込み需要で売上が伸びたという取引先もあるが、その一方で、定期的な受注を解消され、売上が減少したという取引先もある。
			不動産業（営業担当）	取引先の様子	・最近、近隣ホテルと協議会を行ったところ、今年度に入ってから稼働が下がり気味で、厳しい状況は競争相手も同様である。
			新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・チラシ出稿量は97.6%となっており、なかなか前年を上回る勢いは取り戻せない。今月の前半は低迷したが、後半になって盛り返した。また、数年前から官庁や企業の制服が廃止される傾向が続いており、衣替えを前に、今年制服を新調する官庁や企業は更に減っていると聞いている。
			社会保険労務士	取引先の様子	・売上が伸びている事業所はほとんどないが、急激に売上が落ちている事業所もない。
やや悪くなっている		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏休みと連休の影響で、ユーザーの消費が悪く、低調であった。全国販売商品は業界低迷のため、出荷がまるで無い。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べ1割程度ダウンしている。10月の受注はエコカー補助金の終了と円高の影響で、今月と比較してかなり落ち始めてきている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が減って来ており、在庫が増えている。先行きを心配して生産を落とすなどの情報が飛んでおり、当社も9月に一部の生産が落ちている。	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・これまでは主力メーカーからの受注量が増えてきていたが、エコカー補助金打ち切りと同時に、国内では生産調整に入っている。非常に円高傾向が顕著なため、主力メーカーは海外にシフトしようとしている様子であり、その上、受注量が落ち込み始めたことにより、コストダウン要請も厳しくなった。例年より前倒しで、非常に大きな負担がのしかかっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		その他製造業 [環境機器] (経営者)	取引先の様子	・灰家電ブランド関連のうち、フロン関連は良いが、車の钣金、塗装関連は横ばいである。行政向け装置は今年前半から予定に入っている所を別にして、来年度予算に入れる気配が感じられない。	
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・製造業の受注に変化がみられ、一部でレアメタル等の材料調達が滞っている動きもある。	
		不動産業(経営者)	取引先の様子	・契約会社とオーナーとの間で問題やトラブルがやや増えていると聞いているので、条件が厳しくなっていることが推察できる。	
		広告代理店(営業担当)	取引先の様子	・飲食店の客入りは、相変わらず悪く、求人広告件数やPR広告出稿数が落ちている。	
	悪くなっている	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量の動き	・9月の展示会でも来場者は少なく、売上もダウンしている。秋冬用の新作、またクリスマス用の新製品への関心も薄かった。どの店も現状のやり繰りで一杯で仕入意欲がない。	
		金融業(役員)	取引先の様子	・すべての業種において、設備投資や在庫手当資金などの前向きな資金需要が極端に低下している。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・地域の経済活動の指標とも言える建設業の業況が一段と悪化している。夏場の観光地関係、商業関係の業績が軒並み不振で、中小企業の資金繰りや経営改善の状況はさらに後退している。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・介護関係の医療、看護師、介護士といった募集は目立っている。電機、自動車関係も前月より伸びてきており、募集に活発さが見受けられる。住宅関連については増改築等はあったようだが、まだ不透明なところがある。夏物は衣料も含め、電器、家電は良かったように見受けられた。	
		人材派遣会社 (管理担当)	周辺企業の様子	・営業アポイントが増え、契約件数が徐々に上昇している。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・主要産業の電気機械器具及び輸送用機械器具の製造業が大きく増加したことの影響により、流通業関係の運輸業も大きく増加した。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が増加傾向にあり、ハローワークの紹介による就職者数も増加しているが、内訳は一般常用よりもパートの就職者数が増加している傾向にある。	
	変わらない	人材派遣会社 (経営者)	採用者数の動き	・今まで仕事を頼まれると募集人数が多かったが、最近は仕事も人数も少ない。	
		求人情報誌製作 会社(経営者)	求人数の動き	・介護、医療関係、サービス業等の求人は多少目立つが、その中でも正社員は少なく、パート募集が多い。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・今年8月の新規求人数は、前月比で微減となるが、前年同月比で20%以上増加した。求人を持ち直しの動きがあるものの、臨時、契約社員、派遣社員求人が増加し、正社員求人は同水準のままである。	
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人、新規求職者の動きはそれほど大きくないが、前年度に比べると求人数は増えている。ただし製造業等からの求人は目立っていない。	
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・前年との数値比較において、新規求職者数が一般、パート共に若干ではあるが増えている。職業相談や求人情報を求めて窓口を訪れる来所者の数も連日多く、印象としても、仕事探しをしている人が減っているという感触はない。	
		学校[専門学校] (副校長)	求人数の動き	・求人社数、求人者数共に増加していない。特にコンピュータ関係等、職種によっては一向に求人がなく、欠員募集を待つような状況である。	
	やや悪くなっている				

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・広告スポンサーの閉店、廃業がこのところ多い。

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	家電量販店（営業統括）	販売量の動き	・猛暑の影響からエアコンの販売が好調で、9月に入っても前半を中心に、例年以上の販売数量を記録している。また、パソコンの販売が持ち直しつつあり、買換え需要が伸びている。外国人観光客の来店も中国人を中心に大幅に増加し、免税売上は前年比160%と大きく伸びている。	
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・残暑も厳しく、テレビ、アンテナ工事などが多い。	
	やや良く なっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・当店は大改装があったため、来客数、販売量の動きはそれに乗じて伸びている。	
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・9月に入っても気温が前年より高めに推移していたため、秋物の動きはあまり良くなかったが、気温の低下に伴って急激に伸びてきている。また、訳あり商品企画といったイベントへの客の反応が非常に良くなってきている。	
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・猛暑の影響で夏物商材の売行きが好調である。前半は猛暑日が続いたが、中旬以降、気温が下がって秋冬商材の動きが活発になっている。たばこ値上げでの特需もあり、消費が高まっている。	
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・反動は必ず来るが、今年の大変な暑さと10月からのたばこ値上げによる駆け込み需要で良くなっている。	
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・残暑の影響で夏物需要が長引き、活発な状況が続いている。気温の変化で秋物需要が急激に上向いて非常に良くなり、来客数が増えている。	
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	お客様の様子	・市場全体では相変わらず前年を下回っているが、恒例の大型イベントが過去最高の入場者数を示したり、新作が期待以上に動くなど、年末に向けて客が盛り上がってきている。	
		高級レストラン（副店長）	来客数の動き	・秋から冬にかけての宴会予約状況の推移をみると、やや良い。	
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・人気商品の堅調な売上増により、前年比で大幅に販売実績を伸ばしている。	
		その他レジャー施設〔ボウリング場〕（支配人）	お客様の様子	・若年層を中心に、消費意欲の改善がわずかだが見える。長引く不況の中で消費を抑えてきたことに限界が見え始めている。	
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・設計契約が1本まとまったため、しばらくは横ばい状態が続き、収入が多少ある。管理物件の完了時のものもあり、やや良くなっている。	
		設計事務所（職員）	それ以外	・耐震性に問題がある昭和40年代の建物の、民間案件の発注数が伸びてきているようである。	
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・食品関係は、大型店に価格で非常に押されている。客は価格に敏感なため、客数が減り、客単価も落ちている。衣料品関係は気温に左右され、このところの涼しさから、非常に良くなっている。そのため、どちらとも言えない。
			商店街（代表者）	それ以外	・クレジットカードの取扱は相変わらず回復基調で、前年同月を超えている。しかし閉店も多く、決して良い状態とは言えない。
			一般小売店〔祭用品〕（経営者）	お客様の様子	・夏が終わり、すっかり客も落ち着いてしまっている。
一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	お客様の様子		・9月は中旬まで猛暑が続き、秋物の展開をしたがちらほらという感じであった。後半は急に寒くなり、秋物が一気に売れ始めており、まずまずである。		
一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き		・相変わらず景気は悪い。来客数も少なく、販売もなかなか思うようにいかない。		
一般小売店〔靴・履物〕（店長）	単価の動き		・3か月前と変わらず悪い。3か月前ぐらいから低単価で、客は正価の値札が付いている物には目もくれず、赤札が付いていないと手に取らない状態がずっと続いている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔文具〕(販売企画担当)	来客数の動き	・前月は大口物件があったため多少良かったが、今月は3か月前とあまり変わらない。特に、本来は気温が下がる月初が猛暑であったため、客数の大幅減につながっている。大口の案件等決まっているものがある部分は問題ないが、それ以外の9月の企業決算などがあまり良くないようであり、景気は変わらない。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・残暑の影響で衣料品が低迷したが、後半は気温の低下で秋物ジャケットや羽織物への客の関心度が上がっている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・売上は前年に絡んだ数字で推移しているが、まだ確実に前年を超えるまでには至っていない。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・9月25日現在で30度以上の日が12日あって初秋物の動きが悪く、また、景気の低迷から高額商材の動きも弱い状況が続いている。
		百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・前年と比べ、単価が一律に下がったままである。
		百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・目に見える大きな変化はないが、主要品目の動きが多少なりとも出てきている。猛暑で厳しかった生鮮3品が好調に推移し始め、衣料品についても10日以降、秋物の動きが起因し、全体数字の底上げにつながっている。
		スーパー(経営者)	来客数の動き	・良くない状態は基本的に変わらないが、今月はたばこの値上げが多少なりとも売上を押し上げており、客数に関しては悪くない数字である。しかし、これは特殊なものであり、今後はその反動が来ると思われるため、厳しい状態が続く。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・以前と比べて物量はかなり増えてきてはいるが、相変わらず安売りの商品は好調で、定番商品の動きは良くない。猛暑の影響でアイスや飲料などの涼味商材が爆発的に売れたことが売上を底上げしていた部分があるので、楽観視はしていない。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・今月に限っては、来客数の1日平均が前年比で約180人ほど落ちている。これが大きな要因となり、売上低迷につながっている。
		スーパー(仕入担当)	販売量の動き	・下旬まで残暑が厳しく、夏の商品を継続販売して前年比を達成していたが、下旬の雨と急激な気温の低下によりメーカー、納入業者が対応できず、欠品が発生している。
		スーパー(仕入担当)	それ以外	・前半は季節外れの猛暑により、アイス等の盛夏商材が売れていたが、彼岸以降の天候の変化により売行きが大幅に鈍っている。ただし、たばこだけは値上げの影響で大きく売上を伸ばしている。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・今の客の動きからはどんどん下がっていく感じがして、非常に心配である。景気が上向くことはしばらくはない。
		コンビニ(経営者)	お客様の様子	・10月1日のたばこ値上げが迫っているため、まとめ買いの客が急増し、売上が一時的に急伸している。そのためか、ビールを含む酒類の売上が減り、結果として利益率が低下している。客の財布のひもは相変わらず固い。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・8月は例年になく猛暑で、また、9月はたばこの大きな駆け込み需要があり、比較するのが非常に難しい。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・10月からのたばこ値上げのため、9月後半から徐々にたばこの売上、販売量が伸びており、その関係で客単価も上がって販売量も増えている。しかし、たばこを除いた他の商品に関してはそれほど変化がない。今まで冷たいめん類がたくさん売れていたが、今度は温かいめん類、あるいは焼きそば、スパゲティ、グラタン等に変わっている。また、冷たい飲み物も急に温かい飲み物に変わっており、中華まんやおでんを始めたりにしている。
		コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・たばこの駆け込み需要がみられるものの、その他の需要にあまり変化はない。
		衣料品専門店(営業担当)	お客様の様子	・气象台始まって以来の猛暑で毎日30度を超す日が続いているため、売上が下がっている。
		家電量販店(店員)	競争相手の様子	・競合店を見ていると、過激なポイント還元は行っていない。さらに、客が店を選ぶ時代でいかに支持を得られているかが明確に出ている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・客単価も来客数もほぼ横ばい状態である。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べて客の様子は、ボーナスや普段の給料、残業と景気が良くなるような話もなく、やはり厳しいという声を聞く。その中で売上もあまり変わらず、景気は横ばいである。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前月は前年比で客数91.9%、売上93.5%で、今月は客数97.3%、売上96.7%となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・挙式見込の来客数が前年に戻っている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊はネット販売を強化し、当社のホームページやネット販売代理店の協力で種々プランや曜日によって料金を変化させているが、売上、集客は共に前年を若干下回っている。土日の婚礼を中心とした個人客の宿泊は前年と大きく変化していないが、ビジネス客の利用が減少している。近隣のイベント会場での会議、学会、コンサート等の開催が前年より少ないことが影響しているためである。レストランは今月から一番集客力のある「北海道」をテーマにしてフェアを開催し、料金は前年並み、メニュー内容にお得感が見えるように工夫して、集客が前年より約1割弱多くなっている。一方、夜の接待利用は減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・単価を下げているから、稼働率は比較的良い。単価を上げて収益及び収入率の向上につなげたいが、それは難しい状況である。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・特にレストランを中心に来客数は増え、客単価は下がる傾向にある。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・円高の影響で、海外旅行の申込が伸びている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・問い合わせの電話は多いものの、相変わらず受注、成約につながらない。
		タクシー（団体役員）	お客様の様子	・気候に左右された月だったが、全体的に無線の配車数、チケット利用枚数は、前年同月比で依然としてマイナスが続いている。特に夜の繁華街や契約企業の深夜利用が少なく、先が見えない。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・テレビ加入が厳しい。ネット、電話は改善が見られる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・デジタル多チャンネルサービスは、低価格サービスを中心に着実に契約数が伸びてはいるが、解約数も前年に比べ増えてきており、全体としては変わらない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・戸建はデジタル対策が進んでいることもあり、契約数が頭打ちであるが、集合住宅については分譲マンションからのデジタル対策希望が増えており、契約数（特にインターネット、電話サービス）も堅調に推移している。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・地上デジタル放送への完全移行が9か月後に迫っていても、対策を決めかねている客が多い。優位性はケーブルテレビであるが、金額的に安価なアンテナにすべきか悩んでいる模様である。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・キャンペーンが功を奏し、インターネット加入件数は伸ばすことができているが、低価格コースが主のため、単価増にはつながっていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の利用料の支払が延滞する件数が増える傾向にある。
		通信会社（局長）	単価の動き	・景気の停滞感に嫌気がさしてきており、中流層以上は購買意欲がある。しかしながら全体的に単価が減少方向にあるため、企業の収益は伸び悩んでいる。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・猛暑で来場者は予定をかなり下回っている。急に涼しくなり秋らしくなっても、期待していたより売上は伸びない。
		競馬場（職員）	来客数の動き	・来客数は前年比で10%以上の減少が4月から続いている。売上は5%の減少で依然として改善されない。悪い状況が長引いている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・郊外のマンション分譲は多少の好、不調の変化はあるが、特に変わっていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・展示場への来場者数は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べて販売量が目標の4割くらいしか届いていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・建物の契約棟数は前年よりやや良いが、3か月前とはほぼ同じである。売上については前年同様、大変厳しい状況である。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・今年は意外に暑い日が続いたため、客の動きが非常に悪くなっており、それと同時に売上も落ちていくという悪循環が続いている。最近、暑い時期も終わったので、少しは戻ってくるかどうか見ていきたい。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・店の前を通る人通りはそれほどでもないが、客が買物をするに非常に慎重になっており、買い控えをしている。特に来客数が極端に減っている状況で、それが売上の減少につながっている。
		一般小売店[文房具](経営者)	販売量の動き	・今月はこれという目立った状況はないが、前年度より悪い。
		一般小売店[酒類](経営者)	来客数の動き	・来客数、販売量共に減少している。相変わらず、料飲店の販売も減少している。
		一般小売店[米穀](経営者)	お客様の様子	・たばこの値上がりを控えて、買いための予約客が多い。しかし、家庭を持っている客が多く、若い客はほとんどいない。買って置くという考えがないのか、お金が無いのか、昔とは少し違うようである。
		一般小売店[生花](経営者)	販売量の動き	・今年は夏が暑かったため客の購買意欲が無くなり、買物に出るような気持ちにならなかったようである。
		一般小売店[茶](営業担当)	それ以外	・敬老会の引き出物の需要が無くなり、大きく売上を落としている。イベント会場に臨時出店をしたが、思うように売上が上がらない。
		一般小売店[茶](営業担当)	お客様の様子	・今月は企業の売上高も芳しくないが、大型イベント会場で行われた個人向けの売出しも、前年より売上高が大きく下がってしまっている。これは、例年のない猛暑の影響でせん茶の需要が下がったためと裏付けられる。
		百貨店(企画担当)	販売量の動き	・7、8月と販売数量、売上、来客数とも前年を超える動きで顧客の節約疲れや上向き感の手応えを感じられることがあったが、民主党代表選、円高の動きと連動した株安などの社会的な不安要素が影響しているのか、9月は消費動向にブレーキが掛かっている状態が続いている。
		百貨店(広報担当)	それ以外	・販売単価、客数など、どれをとっても上向きの指数が出てこない。昨年は大型連休があったが今年はそれもなく、厳しい売上だったため弾みもつかず、数か月前より余計に厳しい感じがする。
		百貨店(広報担当)	来客数の動き	・円高、株安の影響に加えて、残暑がマイナスに影響している。8月は気温に関係なく購入するファッションに強い関心を持っている客が中心のため、ほぼ前年並みに推移したが、9月は気温に左右される実需の客のため、秋物の買上げが遅れている。雑貨、リビング、食品などに比べて気温に左右される婦人衣料、紳士衣料の落ち込みが大きい。また、経済的与件に左右される高額品が大きなマイナスになっている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・残暑が長引いた後、急に寒くなってしまったため、秋物衣料よりも冬兼用となる衣料を探している様子が多く見られる。本来売れるべき秋物が売れない。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・残暑による影響が大きく、アパレル関連では秋物の動きが非常に悪くて前年比15%減である。例年物産展を開催し、客の動員を仕掛ける時期であるが、来客数は同2%減とここ数か月の傾向と変わらない。セール処分品が同50%増に対し定価品は同10%減となり、購買単価の減少も大きな要因の一つとなっている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・天候不順による猛暑の影響が大きく、秋物の動きが大不振である。
	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・残暑や雨天など秋らしからぬ気候も影響して、マスメディアの購買動機が低調である。	
	百貨店(店長)	単価の動き	・前半は気温高もあって衣料品はカットソー等、時機に合った商品すら定価品は動かず、夏物セールのみである。後半は気温が下がりアウターが動くものの、低価格の物ばかりである。ブランドによってはこの秋から企画変更で価格帯を前に戻して2~3割高く設定したが、より割高感が強く、全く売れていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・来客は前年並みであるが、客単価、客当たり買上数が減っている。食料品は堅調だが、秋物は雑貨関連に動きがあるものの、月中までは残暑の影響で衣料品は鈍かった。月末にかけて気温が下がり、秋物のニーズは芽生えてきたが、雨など悪天候で出足のほう鈍るという悪循環である。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・残暑や雨など天候の影響もあり、衣料品を中心に秋物の販売が苦戦している。来客数よりも売上の落ち込み幅が大きい。
		百貨店（販売管理担当）	単価の動き	・来客数、販売数量は前年を上回ったにもかかわらず、販売単価の下落により、売上実績が前年を下回っている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・残暑が強く、夏物の処分品は稼働するが、秋物は稼働していない。したがって単価も下落傾向にある。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・明らかに来客数が減り、販売量も落ちている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・暑いからといって飲料が動いたということはない。自己防衛が習慣化しているため、かなり厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・9月は来客数は2%増だったが、1品単価の下落がきいて売上は2%減である。秋物の出だしは良かったが、客は価格の低い物ばかりに走っていったようである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・天候にかなり影響を受ける商売であり、今月の猛暑からの突然の低温、長雨で、外出を全くしたくない状況が続いている。また、収入減による自己防衛意識が強くなっている様子が見える。買物も、自分の予算と商品価格が合わないとい我慢するようである。
		衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・今年の夏は猛暑が続き、秋の立ち上がりの数字も悪い。気温が落ちるのも温度差があり過ぎて、薄手の秋物まで苦戦している。ただ無駄遣いをしないでひっそりとしている感じもある。
		家電量販店（副店長）	来客数の動き	・長期間の猛暑もあり、エアコン、冷風機等の季節商材が好調に売れていたが、季節の変わり目が例年と違うこともあって暖房商品に影響している。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・整備は順調に売上が上がっているが、販売はエコカー購入補助金が終わった途端に悪くなっている。今月は前年度の前月よりも5割減となっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・9月に入って来客数はがた落ち、販売量も激減し、前月までは前年を超えていたが、今月は80%台に落ち込んでしまっている。これはエコカー購入補助金制度の終了によるもので、善後策を図っているが難しく、今後は思っているより厳しいかもしれない。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・輸送量の問題で、コンクリートから人へということでダムなどの工事が中止されているため、まず建物関係のミキサー、バルクなどの業種が減車している。また、リーマンショック以降不景気となり、自動車売れなくなって鉄の輸送も減ってきている。全体的に昔の重厚長大企業が減車をしているため、トラックについては景気が悪い。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数も少なく、それに比例して販売量もなかなか伸び悩んでいる。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	販売量の動き	・昨年インフルエンザ騒動でマスクや手指消毒類が非常に売れた分、今年数字が非常に落ち込んでいる。他にも化粧品や医薬品も落ちているので、全体としてとても厳しい。
		その他専門店 [雑貨]（従業員）	販売量の動き	・新店がオープンしたが、あまり販売数が伸びていない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・衣料品は中旬までの猛暑の影響で秋物が壊滅的状況となっており、客数も紳士衣料、ファミリー衣料が約4割、婦人衣料も約3割の落ち込みとなっている。映画は夏休み作品から好調を維持して約3割の集客増となり、飲食も映画に支えられ約1割増となっている。全体的には約3%の集客増であるが、客単価は依然厳しく13%も落ち込んでいる。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客は入っているが、客単価が下がっているため売上は伸びておらず、やや悪くなっている。ケータリングも、今までは1人当たり3～5千円だったが今では2千円くらいと、単価が落ちている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・近隣の30年営業していたスーパーが閉店した。家賃、人件費が足かせになっている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・当店は結構入っているが、他は全く入っていない。例年と比べて落ちてはいないが、全体が下向きである。当店のよう50年と長くやっている所は名前が知られていて良いが、他は下向きで駄目である。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・販売量が前年と比較して落ちてきている。
		通信会社（企画担当）	来客数の動き	・市場がやや飽和状態に近付いているため、やや悪くなっている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・販売量は前年比でも増えているが、前年以降急増している解約傾向が引き続き止まらない。地上デジタル放送移行に備えて、自らのアンテナ設置によるアナログ契約者の解約が主な原因である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・前年は大型連休があつて良かったため、前年実績に比べてかなり悪くなっている。
		遊園地（職員）	お客様の様子	・物販飲食等の消費単価が伸びておらず、買い控え傾向が続いている。
		ゴルフ練習場（従業員）	来客数の動き	・8月は暑さのために売上を落とし、9月も前半はかなり暑い日が多く、来場者数は落ちている。ただし、涼しくなった今でもあまり来場者は増えていないので、やや景気が悪い。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・ピーク時の、夕方からの客の入り方が前よりも弱くなっている。朝も若干減っているかもしれないが、夜8時以降の客が少し減っている。
		その他レジャー施設【ホール】（支配人）	販売量の動き	・秋から年末にかけて最大のコンサートシーズンを迎えているが、チケットの売行きは伸びず、低迷している。生活防衛型が進んでいるのか、趣味の世界に近い演奏会は前売りでの購入を控える傾向にあるようで、高額なものだけでなく全体的に生じている。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	お客様の様子	・プロスポーツ関連の商品、サービスは、シーズンも大詰めになったところで、客からの引き合いも一段落した感がある。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・ゼネコン等の建築設計の件数は本当に減っている。街の力がなくなると言うか景気が悪いいため、新しい計画の設計が無い。そういった中で客の様子が分からず、先が見えない状況である。行政の設計も手掛けてはいるものの、いまだ箱物が少なく、低迷状態を続けており、先が見えない。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・景気が悪いのは相変わらずで、明るい話は全然ない。将来の展望もない。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・仕事量の激減と同時に、計画等が融資等の付く前の段階で止まっている状況である。クライアントは先行きを懸念して慎重な構えになっている。したがって、仕事は一切無い。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約60%弱となり、景気は悪い。3か月前と比べても相変わらず低迷は続いており、さらにやや悪くなっている。夏場は例年動きが悪くなるが、今年は猛暑の影響があり、例年よりも客の動きが悪い。
	悪くなっている	一般小売店【和菓子】（経営者）	来客数の動き	・9月になっても猛暑が続き、前半は客の出が大変悪かった。また、季節の行事がお彼岸、敬老の日、十五夜と重なってしまい、その需要を十分に生かせなかったのが現状である。
		一般小売店【家電】（経理担当）	来客数の動き	・夏が終わりエアコンが売れた分、テレビの動きが悪くて売れない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・残暑により秋物が全く売れず、日中の来客数も少なく、苦しい状況である。従来の顧客層も、訴求に対して反応が悪い。次年度より9月の商材の検討が必要である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー購入補助金終了が見えてからの販売が激減している。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・8日の補助金終了以降、純受注が急激に落ち込み、月間では前年比65%程度まで減少している。売上台数は受注の伸びが止まったことで後半に積み上がり、店舗では何とか目標を達成したが、全社は未達成に終わっている。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・当社全体でも50%以下の販売となっているため、悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (渉外担当)	販売量の動き	・エコカー購入補助金が思った以上に早く終了し、各メーカーの減産表明があるものの、各メーカーや各販買会社独自の補助金対応策を打ち出している。一時的に、3か月程度ではあると思うが、新車購入は2～3割落ち込む。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕 (営業)	販売量の動き	・すべての条件で悪くなっている。このままでは冗談でなく、事業継続について考えなければならない。
		一般レストラン (店長)	単価の動き	・来客数はあまり変わらないが、単価がどんどん落ちている。客は安い物から注文し、滞在時間も短い。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・今年は猛暑が続いたため、例年ならば果物狩り等の受注があるが、暑さのため出渋っている状況がみられ、なかなか客の財布のひもは固い。
		旅行代理店(支店長)	お客様の様子	・今月は夏休みが終わり、飛び石等の連休があったが、法人の動きは社員旅行をやる時機ではないようである。個人旅行も日取りの関係でそれほど伸びない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・猛暑続きと不景気のせいだが、今月も夜の繁華街は客足がまばらで酔客が少なくタクシーの利用客も少ないため、売上が伸びない。都心の街は空車タクシーの列が延々と続き、まだ供給過剰のようである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー適正化・活性化法により減車傾向が進んでいるが、それにもかかわらず前年よりも営業収益が減っている。これからもこれは変わらないと思うため、非常に困った状況である。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・単価が下がっているにもかかわらず、案件が少ない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・猛暑のため、来客が少ない。
		その他サービス〔保険代理店〕 (経営者)	単価の動き	・単価の動きと共に販売量も減少している。
		設計事務所(所長)	競争相手の様子	・今までだと上半期で年間の予定額の7割程度を確保していたが、仕事量の少なさと規模が小さくなったため、今年は3割程度がやっとの状態である。
		住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・当社は不動産デベロッパー業と総合建設業だが、前月同様、東京都内及び近郊の住宅は価格が安くなっていることなどもあり、分譲の売行きが好調である。しかし分譲価格が異常に低いために、全く利益が出ない状態が続いている。建設業においても受注単価が低く、赤字になることも時折ある。公共工事は、受注単価が低いばかりでなく発注量が激減しているため、非常に困っている。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	出版・印刷・同 関連産業(営業 担当)	受注量や販売量 の動き	・今月は、あまり出ないぞうげの印鑑が6月と同じく3本出た。会社設立が7件あり、実用に関係のない趣味の花押印も3本出て、やや景気は上向きである。
		その他サービス 業〔情報サービス〕 (従業員)	取引先の様子	・アナログ放送が中止となるまで1年を切ったこの時期になって、地上デジタル放送への移行を本格的に検討する客が増えてきている。これに伴い、同時にインターネット環境を整備するための相談が増えてきている。まだ受注件数には上昇傾向が分かるほどの変化はないが、引き合い件数は若干増加してきており、今後の動きに期待できる。
	変わらない	繊維工業(従業員)	受注量や販売量 の動き	・比較的高めの衣料品は安価なファストファッションへ消費者が流れるが、品質が良く高価な物には一部で消費者が戻り始めている。
		プラスチック製品 製造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量とも全く増える気配はない。
一般機械器具製 造業(経営者)		受注量や販売量 の動き	・この春に緊急資金を借りることができたので、それでやり繰りをしているような状態である。何とか早く良くなって欲しい。	
電気機械器具製 造業(経営者)		受注量や販売量 の動き	・ビル建設関係の設備機器は、新築物件が減少しているため受注が減少している。反面、リニューアル関係の仕事が始め、そちらの商品が売れ出している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・エコカー景気等で少しは景気が良くなったという話を新聞等で見るが、当社に来る業者は皆、もうあれでは良くなるのではないかと、明るさがないことばかり言っている。今までは良くなったと聞くと少し遅れてでも良くなってきたのだが、最近はこのギャップが大変大きい。当分、良くなる。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・得意先の状況としては、良くなったとか勢い付いたとかいう情報は入っていない。ただ仕事を作ることに専念している状況である。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品がなかなか売れない。
		建設業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・ここにきて受注にこぎつけている物件がいくつかあるが、とにかく安く、利益が出ない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・依然として取扱量が低迷しており、経営環境は大変厳しいものがある。今月も同地区内の同業者が廃業するなど、業界のい縮感を強く感じる。
		金融業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の受注価格は前年度比ではそれほど変わっていないが、受注量が若干増えているので安定はしている。ただし、今後この状態が続くかどうかは不透明であると聞いている。また、利幅が前年に比べて増えていないため、不透明な現状は変わらない。
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・空室率の改善が遅々として進まず、賃料水準の値崩れも激しくなっている。同業者の中には、事務室を空けているより入居させたほうが良いということで破格の低賃料で入居させている所もある。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・得意先の広告宣伝費予算の下がり幅が小さくなっている。予算を削減するところはしているが、使うものには予算を上げて使ってくれている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・金属機械加工業では、自動車関係は盛り返しているが、その他は低調のまま推移している。飲料関係は運送業も含め、酷暑による需要増加で忙しい。
		税理士	取引先の様子	・中古書籍、CD、ゲーム機等を販売している店について、不景気だから中古商品が売れると思っていたが、売上がかなり落ちている。中古商品がそんなに売れず、新商品が安く売れているくらいなので、かなり不景気な状況で、大分悪いようである。
		税理士	取引先の様子	・円高も相変わらず、株価も低迷したまま、物価は下がりっぱなしであり、良い材料は何も無い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・建設業は業績悪化が続いていたが、忍耐の段階から新たな段階に入ろうとしている。このところの経営相談の中で、倒産による債権回収不能への対応、従業員の解雇の手順、会社の清算といったテーマが目立ってきている。地域経済で大きな比重を占める業種だけに、他業界への影響も大きい。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・先行きの不透明感から、顧客からの注文依頼が減っている。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	それ以外	・得意先の事業撤退、単価競争による受注減で、前年に比べて10%減っている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	取引先の様子	・景気が悪いまま停滞しているのか、客先なども含めて動きがない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	取引先の様子	・下期の設備投資に対して、前月同様に消極的である。
	やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響でお酒は売れない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候不順により客数が減少している。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて目安となる予算見積りが増えてくる時期ではあるが、今年はかなり少なく、前年実績の案件が無くなったり、状況悪化はまだ続いている。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新規開拓など、手を尽くしても販売量の回復が見込めない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・医療品容器と化粧品容器の受注により、この秋に増産予定であったが、予定よりはるかに下回ってしまい、売上は伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・中国向けの減産が決まり、景気けん引役の中国向けがないと生産量が落ちる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・業界のマーケットは、一向に上昇の雰囲気がない状況が続いている。したがって引き合いその他、発注もほとんど決定できず、メンテナンスの仕事だけが継続されている。
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車産業からの注文は減少、半導体は一時のピークから下がったまま、医療関係は横ばい、エネルギー関係もこれからという感じで、先行き不透明感が強い。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・電機メーカーや自動車産業の仕事が減ってきている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気押し上げの要因であったエコカー購入補助金が終わり、急激に販売台数が減ったというディーラーの話がある。また、中国との関係が非常に冷たくなってきており、当社の顧客も、中国からの貨物が入ってこないという状況で困っているようである。
		輸送業（所長）	受注量や販売量の動き	・上期の決算期にあたる月だが、あまり実感が無い。前年の荷動きから2～3割ほど落ちている。取引先に聞いても、特に原因はないとのことである。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・後半は改善したが、前半は受注が伸びなかった。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・自動車や電機関連部品の下請業者は、今期に入り売上が回復基調にあったが、ここに来ての急激な円高で、発注元からの発注手控えが起り始めている。
		金融業（役員）	取引先の様子	・客の売上や利益が減少し、月々の返済金額の軽減を求めてくる客の数が従来にも増して多い。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・来客が激減し、古い賃貸物件は入居者が少ない状況が続いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・7、8月の猛暑、9月中旬までの残暑の影響で、客数減少の取引先がある。
		社会保険労務士	取引先の様子	・源泉所得税や社会保険料等の滞納が見受けられ、資金繰りが厳しい会社が多く見られる。
		その他サービス業【映像制作】（経営者）	取引先の様子	・発注後にキャンセルするなど、急に発注の調整を行っているようである。
		悪くなっている		出版・印刷・同関連産業（経営者）
出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子			・8～9月は得意先からの仕事の発注量が非常に少なく、工場の稼働が普通の月の50%くらいに落ち込んでいる。
金属製品製造業（経営者）	取引先の様子			・為替の高騰により、外国からの注文の加工賃に30%引きの話が来ている。受注したら赤字になるので、受注を見合わせている。仕事の先行きの見通しが立たないので、非常に困っている。
建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き			・入札案件は、低価格で受注しても、赤字でなければできない数字である。案件自体も全く無い。
輸送業（経営者）	取引先の様子			・今の得意先と55年間付き合いがあるが、この1社と専属にやっている関係から、今まではこんなに厳しい状況になったことがない。今は毎月赤字の状態、いつ倒産するか、先に辞めるかを考えている。
輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き			・得意先の荷主の出荷量は、前半計画数値を大幅に下回り、半期の数値は計画の半分くらいである。
金融業（渉外・預金担当）	取引先の様子			・在庫整理が進まず、だぶついている。先の注文も減少しており、新規先も全く取れない。このような声を多く聞く。
広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き			・価格照会はちらほらと出てきたので、前月よりは感覚的にはややましといった状態だが、今は夏枯れ状態を引きずってしまっている。
その他サービス業【ソフト開発】（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注減が大きい。
雇用関連	良くなっている			-
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・下期以降、先行き不透明感があるが、製造系企業の求人が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	変わらない	人材派遣会社（業務担当）	周辺企業の様子	・特に飲料などだが、猛暑の影響で9月になっても物量が落ちてこない。そのため、8月一杯での雇用契約者が抜けた後の人員不足を補うため、派遣需要が増えている。	
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・派遣受注は伸び悩んでいるが、人材紹介ニーズは急激に求人数が増えてきている。企業の採用意欲が少し回復してきている。	
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・採用者数が過去3か月に比べて上がっている。また、大量採用求人が出てきている。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・下半期が始まったが、求人が増えている業種は全く無い。	
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・国や地方自治体を実施している新卒未就職者の問い合わせをする企業があるが、派遣などの依頼は動きがあまりない。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・全体感として、新規学卒者の採用枠が増えているわけではないが、グローバル人材の確保に向けてメーカーをはじめ、金融や大手家電量販店、サービス業の一部で外国人留学生、留学経験日本人学生への需要が強くなっている。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・新規取引企業数が減少している。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数が前月比で1.2%の減少、新規求人数が同4.0%の増加となり、求人倍率も0.01ポイント改善している。新規求人数が大幅な増加に転じないことには、景気の回復感は期待できない。	
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所が見られるようになってきたものの、雇用調整助成金の申請が相変わらず多く、製造業のうち零細な事業所が中心となり、利用件数は横ばいの状況が続いている。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数は3か月前と変わらない状況にあり、また、前年同月比でもかなり多い水準にある。	
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・製造メーカーとの付き合いが多いが、今の為替等の環境や状況から先の見通しは非常に厳しそうだが、現時点ではすぐに極端にということはないようである。ただ、採用を積極的にする以前のようにはなかなかいかない。どうしてもというポジションについては、かなり厳選して採用はしている。	
		学校〔専修学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人獲得数は前年同月比で若干のマイナス傾向である。	
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業求人票は全く届いていないが、幼稚園、保育園、施設等は前年以上に届いている。	
		やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣求人案件数は前月同様、少ない状態が続いている。それ以上に派遣契約の満了終了数が増加しており、リーマンショック以降、全体の派遣就業人数が減少している。
			職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人数は増加しているが、正社員求人よりも契約社員、パート求人が多い。
悪くなっている	求人情報誌製作会社（広報担当）	周辺企業の様子	・新卒採用の人材募集広告を営業しているが、全く売れない。これだけ政府が雇用対策を打ち出しているにもかかわらず、新卒採用も中途採用も全然良くならない。		

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	コンビニ（企画担当） コンビニ（エリア担当）	来客数の動き それ以外	・9月前半までは残暑の影響、今はたばこ値上げ前の駆け込み特需の影響により好調である。 ・たばこ値上げ前の駆け込み特需で売上が好調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・異例の残暑の影響で、飲料、アイス、冷めん等の季節節材が大きく伸び、前年比2けた以上伸長している品目が多く、かつその状態が継続している。さらにたばこ値上げ前の駆け込み特需が重なり、タスポ導入時以来の安定した売上増加が続いている。7月までは約10%減少していたため、感覚的には2割増しが続いている印象である。
	やや良くなっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・高速道路無料化社会実験が始まって1か月が経過し、週末の高速道路料金引下げとの相乗効果で観光客が驚くほど増えている。入場無料で楽しめる観光地は当地域の中で特に集客力が際だっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・たばこ値上げ前の駆け込み需要で売上が伸びている。その効果もあると思うが、会社全体での販促変更により、店全体の売上も上向き傾向にある。
		スーパー（営業担当）	来客数の動き	・客単価は依然として伸び悩んでいるが、来客数が前年同月比3～5%ほど上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・たばこ値上げ前の駆け込み特需が売上向上に大きく影響している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電エコポイント制度の延長で購買はいったん落ち着くかと思ったが、引き続きテレビが好調である。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・特に値下げしたわけでないが、今月はよく売れた。問い合わせも多く、景気が良くなってくるのかと思うほど良い状況である。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑も一段落しつつあるなかで、弁当の受注は回復傾向にある。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量や問い合わせ等の数も低位でほぼ横ばいであるが、9月の後半からわずかながらやや増加の傾向が見られる。ただし、これが10月以降も続いていくかは疑わしい。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・売上は低水準で安定している。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・依然として売上低迷が続いている。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	お客様の様子	・低価格志向、余分なものは買わない傾向が続いている。
		一般小売店〔惣菜〕（店長）	お客様の様子	・一般消費者の様子だけを見れば、買物は必要最低限で済ませる傾向が続いている。企業の海外土産の受注は前年よりも多くなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・残暑が厳しいため、秋冬物の動きが悪い。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・8月同様に平日は閑散としている。夕方になると仕事帰りで来店する客が増え、少々売上があるくらいである。土日は天気が良いと郊外に出かけるためか来客数が減っている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・この数が月同じような気象であり、前月同様の動きとなっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費景気は決して良くない。当地区のスーパーの販売競争も一段と激しくなっており、消耗戦が日常化している。当地域の企業も、売上が減少し利益が下がっているため、借入金の多いところは返済に苦労している。今後も企業の倒産が増える状況にあり、景気悪化がより深刻なものとなっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・相場などの影響もあり、商品単価はまだ上がっている部分もあるが非常に厳しい状況にある。高額商品についてはまだまだ動きは非常に鈍く、お買得感のあるものはそこそこ動きが出てきたようだ。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は、たばこの値上げ前の駆け込み需要により上昇しているが、実質前年比96%前後の推移である。競合店舗も98円均一などに力を入れており、単価対策より買上点数の対策に傾注しているようだ。
		スーパー（店員）	単価の動き	・昨今の天候不順により作物の価格が安定しておらず、消費者も買い控えの傾向がみられる。生花に関しては高値ということもあり、今年は特に出荷量が少なく売上が少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		スーパー（店員）	単価の動き	・来客数が横ばい、もしくは多少減っている。商品の動きもやはり安いものだけが動く状況が依然として続いていると思われる。	
		スーパー（店員）	単価の動き	・野菜の相場が高くなり、野菜の値上がりの分だけ、菓子など低価格商品の販売量が減少している。	
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数が前年同月比4.3%減っている。客単価は変わらず、1個あたりの商品単価は横ばいで推移している。	
		スーパー（販売促進担当）	競争相手の様子	・大手競合先が半年間に相次いで5店舗開店し、地元の中小スーパーは淘汰されて閉店が相次いでいる。1キロ圏内で8月に1店舗閉店し、10月にはもう1店舗が閉店する。	
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・たばこ値上げ前の駆け込み特需はあるが、その他の商品に対する客の反応は改善していない。	
		コンビニ（店長）	単価の動き	・単価も来客数も横ばいである。現状は変わっていない。	
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・彼岸以前の猛暑のためか、出歩く人は少なく、来客数も大幅に落ち込んでいる。	
		衣料品専門店（経理担当）	販売量の動き	・依然として客単価及び総販売量共に上向いていない。	
		衣料品専門店（販売企画担当）	お客様の様子	・周囲で倒産や廃業が増え、今はその分の客がこちらに流れてきている状況である。しかし、本格的に上向きになっているわけではない。	
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・来客数、客単価、購入数が3か月前と比べてそれほど変わっていない。	
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・原因は分からないが、来客数が極端に減少している。	
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・個人の宿泊数は4月以来毎月順調に増えて来ている。法人の利用については前年よりは良いとはいえず、まだまだ前年の水準までは回復していない。	
		都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・イベント関係、量販店関係の客が減少している。	
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・海外からの出張は回復傾向にある。国内の宿泊は、単価が全く上がらない。宴会、レストランは大変苦戦している。	
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・客層によってかなりの開きがある。世界情勢が不安であることもあり、客足は悪い。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・前半は悪いながらも夜の乗客があり、連休前の金曜日は非常に忙しかった。その後反動がきたのか秋分の日以降、後半はずっと良くない。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・半年前からやや悪い状態が続き、現在も変わっていない。回復する兆しも見えず、現在はまだ悪いなりに横ばいの状態を保っている。	
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・他社の低価格をうたった営業がはじまり、限られたパイを奪い合う厳しい状況になっている。	
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・提供エリアの拡大で、例年よりは販売数は増加しているが、3か月前に比べるとあまり変わっていない。	
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3か月前ではゴールデンウィークを含め客足は良かった。夏休み期間は若干落ちるもののほぼ同程度の入り込みを維持している。	
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いているなか、今月も前半は厳しい残暑が続き、来客数、売上とも伸び悩んでいる。来客数を伸ばすため値下げすると、客単価が下がって売上が減少し悪循環となっている。	
		美顔美容室（経営者）	販売量の動き	・先月購入しなかった客が、今月に入って購入したためホームケアセットの販売量が増加し、売上げが伸びた。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の話からは景気の良い話はあまり出ないが、それなりにレジャー面で節約しながら上手に遊びに使っている人が多い。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・歩いて来店する客が多い傾向のため、6月ごろは雨が多くて客の出足が悪く、その後猛暑になり来客数が減少している。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注数は横ばい状態である。住宅エコポイントによる効果が若干あるが、大きな増加は見られない。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月ほとんどに客数が少ない。客単価も上がらず、今月の売上は落ち込んでいる。
			商店街（代表者）	それ以外	・円高に加えて、主原料も値上がり傾向にある。売上単価は依然として低く、状況は良くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・景気が不安定ということもあるが、今回に関しては9月にもかかわらず真夏並みの暑さが最大の要因と思われる。商店街の土日は以前より確実に来客数は減っており、暑さがやわらいだ土日は、多少人通りが多い。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	それ以外	・9月決算を迎える取引業者からは「数字が悪く、仮伝票で売上を作って、10月にその処理をしないとどうしようもない」といった悲痛な言葉が聞こえる。当業界も今月は休日が多い上に、悪天候により売上目標に到底及んでいない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・個人消費が落ち込んでいる。贈答用に関してもやや単価が下がっている。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・例年9月は、10月からの新年度スタートに向けて色々準備するものだが、個人、企業とも贈答品店への注文及び依頼が顕著に減少傾向にある。カレンダーの注文も今年は保留や減数傾向にあり、景気は下向きである。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・前月に続く猛暑により来客数は減少している。客単価も7～8%下がっている。猛暑で材料の野菜類が著しく値上がりしており、通常の2倍の価格をつけている品物もある。売上も前年同期水準に届くのは厳しい。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・明確な目的を持ったショップの客やお洒落を探す客は来店し、その購買率は高い。一方、明確な目的を持たずに衝動的に購買する来客数は減少している。商品単価と客単価は上昇傾向にありながら、売上額が減少している。購買客の減少が大きな要因となっている。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・前年は初めての9月の大型連休ということもあって近場のデパートでも消費意欲がそれなりに感じられたが、今年は飛び石連休となり、遠出をせず、近場の外出も控えた様子である。特に中心市街地ではより一層人出が少ない。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・野菜を中心にあまりに価格が高騰しすぎて売れ行きが悪い。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・今回の要因は猛暑日が長く続いたということに尽きる。売れたものは飲料などが中心で、平均単価も下降気味である。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・客の購買意欲が依然として低い。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・エコカー補助金の終了に伴い 新車購入者が減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金が終了してから、一気に来店客数、販売量共に落ち込んでいる。まるで今月は例年の8月かのように、販売目標の7割にも達していない。減税はまだ継続していることに対する客の認知が低く、商談をしてもピンとこないようだ。
		住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・持ち家住宅、分譲マンションの売行きは持ち直してきているが、企業の設備投資、公共工事は落ち込んでいる。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて宿泊客、昼食、夕食とも予約の出足が鈍くなってきている。来客数が減少傾向で、やや悪化している。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・エコノミー、ビジネスホテルの宿泊客数の動きからは、先行きが見通しにくい。
		都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金終了に伴って今後の動向が不透明なため、製造業を中心に出張などを自粛する傾向にある。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・8月は秋シーズンの受注が例年並みにあったが、9月に入ると販売量が減少している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・9月は夏休みの反動でいつも暇になるが、例年に比べ来客数が減っているように感じる。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・イベント需要を期待していたが、上海万博は、猛暑と混雑により申込が低迷し、平城遷都1300年祭も中途半端な施設とシステムにより期待外れの結果となっている。じり貧状態で旅行需要、売上ともに減少している。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・代行運転をタクシー代わりに利用する人が増え、タクシーの客が減っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
悪く なっている		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数が減り、売上げも減少している。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今月はまだ残暑が厳しく、客の来店周期が長くなっている。
		住宅販売会社（企画担当）	販売量の動き	・モデル住宅の完成見学会を行ったが、来客数が非常に少ない。
		商店街（代表者）	それ以外	・取引先の状態を聞くと、今月は非常に悪いという話を耳にする。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・盆を過ぎて、飲食店への入店がさらに悪化している。店によっては1日の来客数ゼロが続く日も出ている。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・今月は男性の本が全く売れなかった。これはたばこ値上げ前の駆け込み需要で、男性はたばこにお金を使ってしまい金銭的な余力がなくなっているためではないかと思われる。女性の漫画は今までどおり売れている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が少ない上に、客単価が低下している。
		百貨店（営業企画担当）	競争相手の様子	・円高、株安の影響もあり、徐々に高額品の動きが鈍化してきている。隣接する百貨店が閉店し、客の流入を期待していたが、現在のところ実感はない。また、市内同業では前年売上を軒並み5%程度下回っており、市況の悪さがうかがえる。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・3か月前は、夏物の先行セールなどが売行き好調だったが、夏休みが終了し、隣接店舗の閉店セールによる集客もなくなり、来店・売上共に厳しい状況が続いている。涼しくなってきた下旬頃から、ショップの売上は持ち直してきたものの、売場内での催事メーカーによるセールイベントや催事会場でのイベントがあると、そちらに客が流れて、平場の売上が劇的に悪化する傾向にある。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・彼岸を境に急に涼しくなって、来客数、飲料水の売上が一気に落ち込んでいる。以前から目的買い傾向が強く、客は目的以外の商品はなかなか購入しない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・猛暑が大きく影響し、来客数が減少している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・客が先買いをしなかったところに連日の猛暑で、ほとんど客はすぐに着られる服を買い求めた。もともと秋色は単価も安く、在庫も少ないため9月の売上は厳しい状況となっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー補助金が終了した途端、一気に市場が冷え込んでいる。これだけ一気に冷え込むとは想定していなかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・想定よりも早くエコカー補助金が終了となり、その報道とともに来客数が20%減少し、受注も40%減少した。受注減の歯止め対策も後手に回り、エコカー補助金に対する客への応対も重なって、ダブルパンチを食らったような感じである。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	エコカー補助金が終わり、売行きは前年比50%を割り込む勢いである。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・盆明けから、販売台数は落ち込んでいたが、エコカー補助金が予想以上に早く終了してしまい、補助金見込みの受注が無くなった。全社でも前年同期比60%の状態である。
		住関連販売店（経営者）	販売量の動き	・見積物件数が激減している。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	お客様の様子	・客の様子を見ている限りでは全く余裕がない。支払もカード利用が減り、タンス預金からの支払が多いようである。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・商品を見るだけで購入しない客が多くみられる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・季節的な変動やイベント等の特殊要因を除いた傾向でみると、最近の来客数、客単価ともに今春の水準を下回っている。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・長い不況のため、ますます財布のひもが固くなっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スナック（経営者）	来客数の動き	・飲食店は厳しい状態にある。この数が月間こんなに客が少なくなったのは、開店以来25年間で初めてのことである。繁華街は殺風景になってしまい、空車タクシーや呼び込みの人たちの姿ばかりが目立つ。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・売上が下がっている。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・近隣店が2軒から6軒に増えた。競合店が増え、客の流れが変わりつつある。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず景気の良い話はなく、客はなるべくお金を使わないようにしている。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・景気の良い話が聞こえてこない。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・競争相手のところにも客が来ない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客が新築住宅を欲せず、まだまだ我慢しているような状態で販売が伸びない。下請業者の生計も不安定である。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	窯業・土石製品 製造業（社員）	受注量や販売量 の動き	・受注量が大幅に増えており、リーマンショック前の稼働率に戻った。残業時間数、休日出勤日数とも以前のレベル。しかし、少量多品種のため、利益率は下がっている。
		電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・取引先が上半期末に設備投資を行ったため、受注が増えている。
		電気機械器具製 造業（営業担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・上期末の予算の駆け込みで多少売上が増え、全体として堅調な売上となっている。
		会計事務所（社 会保険労務士）	取引先の様子	・利益が上がっているところは少ないが、売上高は好転している。雇用調整助成金を受給している会社も、休業日数が減ってきている。
		その他サービス 業〔広告印刷〕 （従業員）	受注量や販売量 の動き	・若干ながら受注量が増えている。
	変わらない	紙加工品〔段 ボール〕製造業 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・5月ごろから前年に対し伸びのない状況が続いている。大手コルゲーターメーカーは飲料の占める割合が多いため、猛暑によって受注量が増加しているだろうが、当社は飲料関係は全く扱っていないので夏場の受注量も伸びていない。総じて前年と変わらない。
		出版・印刷・同 関連産業（経営 者）	取引先の様子	・飲食業、美容関係など、主たる取引先業態で、景気向上の様子は見られない。
		鉄鋼業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量共に、盆明けから今月にかけて前月比で30%くらい落ち込んでいる。盆前の駆け込み受注が終わり、補助金の終わりを見越して生産計画が落ち込んでいる。
		一般機械器具製 造業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・北米、アジア共に自動車業界は設備投資に対して意欲的になってきており、予算がすでについているプロジェクトや引き合いが増えてきた。しかし、円高のため価格競争力がなくなり、受注できない案件や受注できても利益がでない案件ばかりである。
		一般機械器具製 造業（経理担 当）	受注量や販売量 の動き	・量産機種の受注額も当上半期は4月以降微増傾向で推移しているが、上期全体の見込額では前期比約15%程度減少している。
		電気機械器具製 造業（企画担 当）	それ以外	・中期的には弱いながらも回復基調にはあるものの、欧米の景気、中国情勢の不透明感、政府の景気対策など不確定要素が多いため一進一退の状況にある。
		電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・当初見込みの通り推移している。主力の自動車、情報に大きな変動はない。工作機械は予想を上回って推移している。
		電気機械器具製 造業（経営者）	受注価格や販売 価格の動き	・原材料の値上げが分かっているにもかかわらず、取引先の価格要求、価格協力に応じるなど無理をして受注している状況である。
	輸送用機械器具 製造業（総務経 理担当）	受注量や販売量 の動き	・9月は客先型の受注量が多く4月以降では一番の売上となっている。	
	輸送用機械器具 製造業（財務担 当）	受注量や販売量 の動き	・工場稼働率は引き続き好調で、3か月前から変化はない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
雇用 関連		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・不動産業では、低価格物件の売行きは良いが、高価格物件は客足が鈍い。消費者が非常に慎重になっている。		
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費財、生産財ともに物量は前年比10%増くらいで横ばいに推移している。		
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は順調に増加している。		
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・東京、名古屋といった大都市圏から各地方に向かう荷物量が減少している。		
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・今年の売上は3.5%増加となり、前年に比べ2.7%ほど改善されている。		
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・客の購入状況は相変わらず投資を必要最低限に抑えている。		
		金融業（従業員）	取引先の様子	・全体の推移は、3か月前から良くも悪くもなっていない。		
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・自動車業界では受注量の改善が見られるが、景気悪化前の7割程度となっている。コスト削減による利益回復であり、十分な利益が出ているとは言いがたい。		
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・オフィス需要はまだまだ低調であるが、家賃の値下げ交渉はなくなってきている。		
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・クライアントの動きはまだ停滞しており、新規の申込等もほとんどない。		
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告の出稿量が底を打ったと思ったら、今月は前年同月比で減少となっている。		
		行政書士	受注価格や販売価格の動き	・貨物の荷動きが少し鈍くなっている。		
		やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・円高、株安の影響で受注量、販売量とも少しずつ減少している。	
	化学工業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・客先において在庫調整があり、受注がやや少なくなっている。		
	金属製品製造業（従業員）		受注価格や販売価格の動き	・価格の低下傾向が止まらないため、せっかくの引き合いがあっても、受注にちゅうちょすることが多い。しかし、安くてもどこかが受注してしまうのでこの連鎖が止まらない。		
	建設業（営業担当）		取引先の様子	・工場で受ける仕事が減ってきている。		
	輸送業（従業員）		受注量や販売量の動き	・エコカー補助金が終了し、すそ野の広い自動車関連の荷動きが低調となっている。景気の先行きを懸念した消費の手控えがみられる。		
	金融業（法人営業担当）		取引先の様子	・1か月間の設備投資案件は皆無であり、取引先の設備投資意欲は弱い。個人事業先では、信用保証の条件変更に必要な保証料を払う資金すらない取引先もでてきており、政府の資金繰り支援策が延命に過ぎなかったことが露呈しつつある。		
	経営コンサルタント		取引先の様子	・いまだ雇用が不安定な状態で、ボーナスで支払うことができずに競売にかけられる物件が多数発生している。家のローンを返済するのに四苦八苦する状況のなかで、新たに土地や建物、家を買うという動きは影を潜めつつある。		
	会計事務所（職員）		取引先の様子	・顧問をしている企業数が減少している。その背景には、複数の会社の経営者が採算が悪化しているほどの会社を縮小したり、後継者が見つからず廃業している会社があったりする。また、報酬が安い税理士へ移る会社もある。全体的に、企業は規模を縮小する傾向が見られる。デフレの影響によるものが大きい。		
	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）		受注量や販売量の動き	・相変わらず予想売上は低迷しているが、下期締め切りにあわせ多少の増加が見られる。		
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）		取引先の様子	・取引先においては総じて2割程度の生産減となり、ライバル社においてもその日暮らしの状態である。設備投資の新規発注は少なく、大変厳しい状態にある。		
	悪くなっている		金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格、量ともに低下している。	
			不動産業（経営者）	取引先の様子	・飲食店などの改築・改装を行っている取引先の受注が全くない。	
			公認会計士	それ以外	・顧問先企業の業績が悪化しており、従業員の賞与の未支給、賞与カットが続出している。	
	雇用 関連		良く なっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・顧客からの研究開発ニーズは継続して増加しており、同業他社の受注も増えている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用の案件が活発化している。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・求職者ニーズの高い製造業の求人が増加傾向にある。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・どの業界でも、10月以降の求人に顕著な需要は見えない。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	周辺企業の様子	・派遣、請負会社の状況は、引き続き現状維持となっている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告量から見ると、ここ数か月は底ばいそのまま推移している。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・中途採用の一般求人の底ばい状態が続いている。リーマンショック以降大幅に落ち込んだままの状態、今のところ回復の見通しは立っていない。製造業の多い地域が特に低調である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数が若干減ってきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が3か月前と比べるとほぼ同数で、最近の円高の状況下で製造業の求人が減っている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数が少し減っているが求職者の状況は増加傾向にある。全体としてあまり良くはない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数は5か月連続でわずかながら伸びてきているが、求職者は減少しているとはいえ高止まりしている。失業が長期化している状況にあり、大きな変化は見られない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者については減少傾向であったが、8月については横ばいとなっている。新規求人数は前年同月比で大幅増であるが、就職者数は減少している。総合的に見るとそれほど大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・3か月前と比較すると変わらないが、ここにきて景気は下向きになっている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・産業界に雇用状況の改善を示すような動きが見られない。	
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・例年に比べても3割ほど求人数が減少している。
		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・人材派遣事業にかかる求人への応募者が非常に増えており、年齢構成も多岐にわたっている。
		人材派遣会社（支店長）	雇用形態の様子	・厚生労働省の動きにより直接雇用化（契約社員、パート）もしくは自由化業務に切替える企業が増加し始めている。各労働局からは是正指導を受ける派遣会社も増加傾向にある。
		人材派遣会社（支店長）	周辺企業の様子	・エコカー補助金の終了に伴って、一部の企業では、期間工の派遣社員の契約が終了している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が前年同月比で3か月ぶりに増加に転じた。また、新規求職者のうち、事業主都合の離職者が前年同月比で7か月ぶりに増加に転じた。
民間職業紹介機関（営業担当）		求人数の動き	・求職者数の動きが鈍くなっている。	
悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・ここ1年、オーダーがほとんどない状態が続いている。	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこ特需のおかげで販売高が上がっているのはもちろん、客のついで買いの効果も大きく、他の商品も久しぶりに動いている。
	やや良くなっている	通信会社（役員）	販売量の動き	・デジタル放送サービスの新メニューを9月に取扱開始した効果もあり、アナログ契約からデジタル契約への切替も順調に推移している。今年度から取扱開始した電話サービスの申込件数も今月は最高値を更新した。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・前年同時期と比較して契約件数が増えている。また、予約状況も客の動きも増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・急に涼しくなったが、秋を通り越しそうな雰囲気である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔精肉〕(店長)	来客数の動き	・全体的に来客数は大きな変化がみられない。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	販売量の動き	・客数が伸びそうで伸びない、売上も上がりそうで上がらないじれったい傾向が続いている。
		百貨店(売場主任)	販売量の動き	・高額品の動きはここ2~3か月変化はみられないが、20~30万円の商材に低迷感がある。株価の低迷と円高による買い控え行動が中間客層にある。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・全体的に販売量が復調しておらず前年を下回っている。来客数が回復しているところでも、1人当たりの購入単価が低く、前年を上回るまでにはなっていない。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・客の買い物動向については変化がない。ポイント倍増などよりサービスの付加価値がある日に客が集中している。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・朝一番の特売の時間帯、夕方の見切り処分の時間帯に客が集中する状況が一段と強くなった。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・猛暑の影響で盛夏商材中心に購買動向が高まっているが、最低限必要な商品しか買わない消費スタイルは変わらない。
		スーパー(店長)	単価の動き	・3か月の客単価に変化がなく、売上高も伸び悩んでいる。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・3か月前と比較し、来客数など数値状況の改善がみられない。
		スーパー(総務担当)	来客数の動き	・中旬過ぎまで残暑が続き客数が減少したうえに、必要なものしか購入していない。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・たばこの値上げによる特需で売上は好調であるが、客単価のみが高くなっただけで来客数は3か月前と変化がない。
		コンビニ(店長)	それ以外	・たばこの値上げで駆け込み需要が発生している。しかし、たばこを大量に購入するためか、その他の商品の売れ行きが悪くなっている。
		コンビニ(店舗管理)	お客様の様子	・低単価の惣菜が好調に推移しているのに対し、高額惣菜の低迷が続いている。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・来客数は前半暑さが続き減少したが、後半に入り秋らしさが感じられるとともに徐々に増加してきた。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・暑さは落ち着いてきたが、客の単価に対する意識は依然として非常に厳しい。
		衣料品専門店(総括)	お客様の様子	・来客数が特に増加しているわけでもなく、ついで買いが見られず、目的買いの客が多い。
		家電量販店(経営者)	販売量の動き	・好調な商品はエアコン、冷蔵庫、カラーテレビなど猛暑、家電エコポイントによるものであり、そのほかの商品は相変わらず厳しい。
		家電量販店(店長)	単価の動き	・猛暑や家電エコポイント需要での販売量の増加はあったが、単価面では前年より大幅に低下している。
		家電量販店(店長)	来客数の動き	・必要な商品以外のときに来店する機会が減っている。ついで買いや衝動買いが少ない。
		乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・販売台数からすると、エコカー減税及び補助金による駆け込み需要もあり、またこれまでの受注残により、前年以上の成果が残せている。しかし、補助金廃止の発表以来受注ベースが格段に落ちてきているので10月以降の見通しがたたない状況である。
		自動車備品販売店(従業員)	単価の動き	・集客面は減少していないが趣向品の単価低下が大きい。また、買上点数も下がっている。
		住関連専門店(店長)	お客様の様子	・景気は悪いまま変わっておらず、どちらかに動いているとは感じない。客の動きも大きな変化はない。買上点数を上げるなどの工夫をしているが変化がみられない。
		その他専門店〔医薬品〕(営業担当)	単価の動き	・ナショナルブランドの各メーカーの値下げ攻勢によって、かろうじて数量を確保している。値下げによる単価の下落は収まっていない。
		高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・前年同月比では今年最も厳しい結果となった。円高を含め国内旅行が弱く、また、地方経済は明るい兆しがみえない。
		一般レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・9月に入っても夏日が続き来客数は好調に推移していたが、下旬の連休頃から落ち込み始めた。野菜類の値上げなどで、スーパーでは夜にタイムサービス品を購入する人が増えている。
		観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・宿泊客数は前年比増加している。宿泊単価は前年比変わらないが、消費単価が低下し売上は前年並みになっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・約半年近く前年の売上を超えている。特に宿泊が順調に増加し、宴会も回復基調にある。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・海外個人旅行は円高によるお得感の好影響が見込めるが、法人等の海外団体需要は逆に円高による業績悪化が悪影響を及ぼしているのではないかと思えるほど需要がない。
		通信会社（職員）	それ以外	・秋の行楽シーズンに入ったが、「安近短」の傾向が強く、以前に比べ景気が回復したという実感がない。
		通信会社（社員）	それ以外	・中小企業経営者との会話の中では、経営者の景況感では悪いままで変わっていないようにとらえている方が多い。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・スマートフォン端末が好調であるが、携帯電話の新規購買については相変わらず消極的で、総販売数に対し1人当たりの客単価は低迷しており、全体として動きの鈍い状況が変わらず続いている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・6、7、8月と3か月連続で売上が前年同月を上回ったが、今月は3%程度前年同月を下回りそうである。
	やや悪くなっている	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・希望価格が低下傾向にあり、従来のローコストといわれる価格帯より一段と低い価格帯に関心が高まってきており、受注件数が増えても利益面で厳しい状況が予想される。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年になく残暑の影響からか、秋物衣料の動きが今一つ悪く店頭にいつまでも夏物が残っている状況が続いた。天候の悪い日は目も当てられないほどの人通りの少なさである。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・オフィス家具やOA関係の機器の動きが非常に鈍い。法人客は投資を抑えている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・記録づくめの残暑であった。本来動くべき初秋物、秋物の動きが約2週間遅れた。売上を前年と比較すると50%を上回るかどうかである。
		百貨店（売場担当）	単価の動き	・値ごろ感のある商品しか売れていない。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・エコカー補助金の終了に伴い、対象外であった車種に引き合いが出ているが、補助金と同等程度の条件提示ながら成果はまだ出ていない。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・乗用車の販売量は前年同月比約1割減少している。新車購入補助金の駆け込み需要によってこの程度の減少に留まっているのであって、実際に景気が良いかどうかは定かではない。しかし、購買意欲は確実に低下している。	
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上高は前年同月比99%、宿泊人数は同102%、宿泊単価は同100%とほぼ前年の水準となった。しかし、前々年との比較ではまだ81%の水準でしかない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊、レストラン利用客の減少、婚礼件数の大幅減少により来客数は前年を大きく下回る。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・月初めに大きなイベントがあったが売上は予想を下回った。全体的にビジネス客が少なく、夕食などは家庭で取ることが多くなったようで、繁華街に出る機会が少なくなった。	
	競輪場（職員）	単価の動き	・1人当たりの購入単価が5%低下している。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・秋のシーズンで来客数の動きが出てきたが、住宅版エコポイントや住宅ローン控除などあるにもかかわらず、景気の影響が買い控えの様子がうかがえる。	
悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・9月になって人の動きが30%程度少なくなった。このような急激な変化は経験したことがない。道路に「通り抜け禁止」の標識が立ったようである。	
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー補助金が9月上旬に終了してからは、新車の受注が極端に無くなった。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・開店以来の最低の売上となり赤字となった。客は小旅行などで出かける機会が多く金の使い方に変化が出てきたように感じている。ただ、低料金の居酒屋などは比較的人が入っていると聞いている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内経済の不調を受けて団体旅行が一段と厳しい状態である。販売高は40%低下した。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・暑さが月の後半まで続き人出は依然として少なかった。夏場に多く出費をしてしまったため節約志向が特に厳しい。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品の買い控えが目立っている。故障受付件数が増え、携帯端末購入が減るといふ、ひとつの端末を長く使う傾向がみられる。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・来客数は、募集ツアーの動きが鈍いものの、一般団体、フリーの個人客、海外からの観光客は前年並みに推移している。しかし、1人当たりの消費単価は前年同月比1割前後低下している。また、観光みやげ物販売は落ち込みが激しく、1人当たりの単価が大きく落ち込んでいる。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新商品が比較的高めの価格帯にもかかわらず引き続き好調に推移し、受注が続伸している。
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の増減はあるが、予定の受注は確保できそうである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・工場の稼働は少し動き出してきた気配があるが、相変わらず、売上、受注量は伸びていない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・9、10月については新製品の受注も好調であり、従来品との相乗効果で売上は伸びているが、新製品が開始する11月以降はまだ予測できない状況である。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・前年と比較し公共工事の発注量が極端に少なく、受注工事が非常に少ない、あるいはゼロという状況が続いている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・受注の回復がところどころで聞かれるようになってきたが、景気は引き続き好転も悪化もしていない。
	やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は確保できているものの、受注の勢いに陰りがあり変化の兆しを感じる。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・現在の受注状況には大きな変化がみられない。先行きについては市況が悪すぎる。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産の7割を欧米に輸出しており、円高の影響で主力市場からの受注が戻らない。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・ここ最近の円高とエコカー補助金の終了により、車関係で特に繊維関連、カーシート関連の貨物が減少している。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者、異業種の経営者からは、急に仕事が減少してきたとの声が多くなってきた。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・折込チラシの全体量が減少している。またチラシサイズも小さくなっている。
		司法書士	取引先の様子	・個人住宅以外では不動産の動きが無く、商業・法人登記分野では取締役の辞任が多い。
		税理士（所長）	取引先の様子	・製造業は、輸出関連の下請け、孫請けの中小零細企業に円高の影響で大手から価格引下げ要請がある。また、設備投資も計画中止や縮小が見られ、民間プラント関係の建設会社の受注も減少し、仮に受注があったとしても価格引下げ圧力がある。基本的にはデフレの雰囲気がある。
	悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間は販売単価が7～8%低下するなか、販売数量は103～105%程度と前年同月を上回る実績であった。しかし、直近では販売数量自体も96～98%と前年同月を下回っており、販売単価の低迷に追い討ちをかけるかのごとく消費の不振が顕在化している。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・依然として受注価格競争が続いており、競争による入札、見積りにおいては、採算を度外視した落札が頻繁に行われている。
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1か月間安定して求人数が多かった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比12.6%、前月比9.3%それぞれ増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として状況の変化はみられない。企業側も社員だけでの対応、または一時的なパート採用などでカバーしているようであり、派遣需要は低迷している。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・微妙に良くなっているという感じはするが、具体的に数字としては上がってこない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年同月比1割減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は増加傾向にあるものの、正社員求人は少なく、正社員を希望する若者の雇用環境は依然として厳しい。
		民間職業紹介機関(経営者)	周辺企業の様子	・半導体・電子部品関連、プラスチック関連製造など一部の企業で求人の動きが出てきた。
		学校[大学](就職担当)	求人数の動き	・求人数については前年度比微増である。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-

7. 近畿(地域別調査機関:りそな総合研究所(株))

(- :回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店[雑貨](店長)	販売量の動き	・10月1日からのたばこ増税を前に駆け込み需要が増え、にわか特需となっている。ただし、10月からの落ち込みを考えると喜んでいられない。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・猛暑の続いた月前半は売上が低迷していたが、後半からは秋物衣料が売れ出したほか、ブランド宝飾品などの引き合いも急に増えている。
		スーパー(経営者)	それ以外	・今月は値上げ前のたばこ特需と猛暑効果で売上が大きく底上げされている。猛暑で出遅れていた果物やさんまなども、ようやく値ごろとなって売れているほか、野菜なども値上がり価格に慣れた客が買い始めている。その一方、加工食品類の数量は伸びているものの、1品単価の低下で厳しい状況が続いている。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・残暑で秋物衣料の売上が前年よりも3~4割ダウンしているが、野菜や果物の相場が上がっているほか、エアコンやエコポイント制度で薄型テレビの売行きも依然堅調なため、トータルでは好調な結果となっている。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・野菜の相場高を利用した販促や、たばこ増税前のまとめ買いもあり、食品を中心に来客数が増えている。残暑で衣料や住関連はやや苦戦しているが、食品の好調が全体を押し上げている。
		スーパー(広報担当)	お客様の様子	・今月は猛暑の影響が残り、衣料品では単価の高い秋物商品が売れずに苦戦したものの、食品、住関連では追い風となっている。全体的には来客数が3か月前よりも良くなっているなど、上向き傾向となっている。
		スーパー(企画)	お客様の様子	・7月下旬に大きく気温が上がり、今月下旬には急に涼しくなるなど、気温の変化が激しいことで季節商品の動きが活発になっている。景気が良くなったというよりも、季節や気温の変化による影響が大きい。
		スーパー(社員)	販売量の動き	・今年の夏は最後まで猛暑が続いたため、冷菓や飲料、調理に手間のかからない商材の動きが活発となっている。来客数も新店舗やイベント実施店舗を中心に堅調であり、1品単価も安定しているため、販売量の伸びが売上増加につながっている。
		コンビニ(店長)	単価の動き	・10月からのたばこ増税に備えたまとめ買いで、売上が急増している。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・テレビの1品単価は前年よりも落ち込んでいるものの、エコポイント制度の特需で販売台数は伸びている。1品単価の低下は、前年のエコポイント制度導入時に大型テレビの需要が大きく伸びた影響である。一方、3Dテレビの発売で需要拡大や単価の上昇につながっており、売上の伸びる要因となっている。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・中間決算とエコカー補助金の終了が重なり、今月は購入に踏み切る客が増えている。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・外食では、価格以外のプラスアルファの価値を提供することで来客数の増加につながっている。客の間では、日常的な食品の購入と外食の使い分けがより鮮明になっている。	
	一般レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・前月は2年ぶりに目標売上を達成し、今月も好調に推移している。店舗別や既存店ベースで見ると課題はあるものの、来客数が目標を上回っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新規客が少しずつ増えてきている。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は11,351円と、3か月前の10,810円に比べるとやや良くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の影響で来客数が減少しており、秋物衣料の動きも鈍い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・月中旬までは猛暑で客足の引きが早く、売上も悪かったが、月後半に秋らしくなってからは前年並みの売上となっている。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・客の平均年齢が高いため、猛暑で体調を崩しているという話をよく聞く。時計は生活に直接関係するものではないので、大きく需要が変化するものではないが、販売量は少ない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・気温が急激に低下しているものの、来客数の伸びない日が続いている。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・月前半の残暑により、客足の伸びが前月とほとんど変わらない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑で夏物衣料が動き出したときには、メーカーの在庫は既になかった。小売店だけでなく、メーカーも在庫をかなり絞っていることを考えると、衣料業界の景気は依然としてかなり悪い。
		一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・客の買物は最小限であり、非常にシビアな状況となっている。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・物の値段が上がり、動きがますます悪くなっている。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	来客数の動き	・9月に入って暑さも多少和らいだため、レジャーを楽しむ人が増えると期待していたが、厳しい残暑で予想を下回る動きとなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・長引く残暑の影響などで一部商品の価格が高騰しているほか、円高や社会情勢の変化など、あらゆる面で経済や消費に悪影響が出ている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・秋物衣料が大苦戦しているものの、景気の影響が強烈な残暑の影響かは判断が難しい。ただし、リニューアルオープンした化粧品や時計売場は、予想以上に売上が伸びている。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・ようやく残暑も落ち着き、秋物商品にも動きが出てきたが、今のところは限定的である。その一方、中国人観光客については尖閣問題の影響もほとんどなく、好調が続いている。
		百貨店（企画担当）	来客数の動き	・秋物衣料の動きが悪く、食品も生鮮品が不振となっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・猛暑が終わって季節が秋らしくなった影響もあるのか、直近の時計関係の催事では50万～100万円程度の商品にかなり動きが出てきている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・月中旬までの猛暑がかなり響いており、秋物商戦の立ち上がりが遅れている。
		百貨店（サービス担当）	来客数の動き	・西日本で初となる観測衛星はやぶさの展示や物産展により、今月は来客数が増加している。全体的には前月よりも好調となったものの、秋物商品は残暑の影響で苦戦している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食品を中心とした日用品は前年並みの推移であるが、たばこは値上げ前の駆け込み需要が発生している。一方、猛暑特需が落ち着いてきたことで、衣料品の売上がダウンしている。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数、売上共に、ここ3か月は前年比で90～93%の推移となっている。
		スーパー（経理担当）	お客様の様子	・月中旬からの気温の低下で、動きの全くなかった秋冬物の衣服品もようやく売れ出している。食品でも猛暑の反動により、鍋シーズンの始めにもかかわらず、関連商品の売行きが好調である。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・購買点数がなかなか上向かない。
	スーパー（販売担当）	お客様の様子	・これまで雨の降った場合は客足が鈍っていたが、雨の日だけの値引きサービスを始めたところ、通常よりも客が増えつつある。	
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣オフィスビルの空室率が高いままで、周辺の購買人口が回復しない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（広告担当）	それ以外	・猛暑で飲料やアイスといった季節商品は好調であったが、売上に占める割合の大きい米飯系の商品はあまりの暑さで不調となっている。また、青果品や関連商品の値上げが進んでいることで、消費マインドが悪化している。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の低価格志向、必要な物以外は購入しない傾向は根強い。消費者の先行き不安を払しょくするような要素は見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・前月の広告効果で来客数が若干増加し、1店舗当たりの販売台数も前月の13.2台から19.9台へと増えている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・相変わらず世の中の空気が重く、来客数が減っている。
		住関連専門店（店員）	お客様の様子	・例年よりも気温の低下が遅く、秋冬商品の苦戦で売上目標を下回る日が続いていたが、ここ最近は気温が急に下がったことで目標が達成できている。ただし、必要になってから来店する客が多いように感じるため、楽観視はできない。
		その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・株安や円高傾向に変化がなく、客の不安感が払しょくされていない。中国との問題も悪化しているため、大変な状況となっている。
		その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・前年並みの売上が続いている。
		その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・宝飾品よりも、イミテーションやネイル、バッグ、アクセサリといったファッション雑貨の手ごろな商品に動きがみられる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・お酒は家で飲むという家飲みの客が減らず、来店数はまだまだ上向いていない。外食の機会が減り、消費者には外食1回当たりの価値が貴重になっているため、少し単価の高い商品や店舗に注目が集まっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・前月の散々な結果に比べれば多少良かったが、活気があるとは言えない。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・平城遷都1300年祭の恩恵により、売上は以前よりも良くなっている。ただし、料金の低下は依然として続いており、今のところは脱却できていない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏が終われば旅行の動きが増えると期待していたが、来館や問い合わせが少ない。
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・客の入込状況は前年よりも悪いが、客単価は2、3か月前と変わらない。
		観光型旅館（団体役員）	来客数の動き	・前年の3連休を含む1週間の来客数を比較すると、今年は73%程度にとどまっている。
		都市型ホテル（マネージャー）	来客数の動き	・宿泊部門は前年を若干上回る稼働率で推移しているが、レストランは全体的に厳しい状態が続いている。また、パーティなどの法人需要も上向く気配がない。
		旅行代理店（店長）	来客数の動き	・尖閣諸島の問題で、中国方面への観光が減少する恐れが大きい。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・残暑で秋のプランがなかなか売れず、ここへきて少し伸びてきたところに尖閣諸島の問題が起き、客が敏感に反応している。中国向けの旅行のほか、中国人客の訪日にも少し影響が出てきている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・京都市内でタクシーを流していても、見掛けるのは空車ばかりであるなど、厳しい状況に変化はない。
		タクシー会社（経営者）	お客様の様子	・猛暑でタクシー利用は増えたが、法人によるチケット利用は前年からダウンした状態が続いている。個人客の財布のひもは固く、企業による経費節減の動きも相変わらず続いている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・ゲームセンターの売上前年比は、横ばいが若干上向いている。
		パチンコ店（店員）	来客数の動き	・来客数が伸びているわけでもなく、減っているわけでもない。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・売上、来客数、客単価共に回復の兆しがみられない。
		その他レジャー施設【イベントホール】（職員）	来客数の動き	・最近は団塊世代を対象とした音楽イベントが増えつつあり、利用状況も好調に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・天気の良い日が多かったため集客状況は堅調であるが、海外からの観光客が支えている感がある。新施設も開業したが、爆発的な集客にはつながっていない。
		美容室（店員）	来客数の動き	・パーマやカラーといった高額メニューのオーダーが増えているが、客の来店周期が伸びているため、全体的に大きな変化はない。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	販売量の動き	・前年が悪かったにもかかわらず、レンタル売上は前年を下回っている。CD販売の前年比も悪化傾向が更に強まっている。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・好調物件は割安感のある物件に限られるなど、本格的な市況回復には至っていない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームでは、来場者の動きが止まることはないものの、にぎわうこともない状況が続いている。
		住宅販売会社（総務担当）	お客様の様子	・住宅ローン減税、住宅版エコポイントといった支援制度の延長に対する様子見も含めて、客が今後の動向を見極めていく感がある。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・9月の住宅展示場の来場者数は前年比で1割減となっている。景気の影響というよりも、猛暑が来場者数に悪影響を及ぼしている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・個人消費に対する円高の影響は今のところ小さいが、これから企業業績に影響が出れば、タイムラグを経て雇用や賃金環境にも影響が広がってくる。
	やや悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・自動車の駆け込み需要やテレビ、エアコンの購入など、食品以外で大きな買物が集中している。消費全体が悪いわけではなく、消費の分布の変化によって食品が悪化している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・商店街の通行量が減り、来客数の減少につながっている。
		一般小売店〔自転車〕（店長）	販売量の動き	・例年、春と秋は忙しくなるが、今年は来客数、販売量共に減少している。まだ景気の低迷が続いている感がある。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・今月は秋の彼岸と月見、敬老の日、祝日が重なり、関連の買物がひとまとめになった結果、販売店からは売上が相当落ちているとの声が多く聞かれる。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・月中旬以降の気温の低下で、秋冬商材の動きが活発になっているものの、来客数、販売量は依然として前年を下回っている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・残暑で衣料品の動きが鈍いと予想していたが、気温が低下した後も、秋物衣料に対する客の反応は鈍い。景気に対する不安からか、買物姿勢が慎重となっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気候の影響で秋物商品の動きが悪く、ここ最近では一番の苦戦となっている。不透明な経済情勢もあってファッションを中心に消費全体が鈍化しており、ビジネス関連が苦戦を強いられているほか、比較的好調であったカジュアル、スポーツ関連の苦戦も目立つ。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・改装効果の続く期間も以前に比べて短くなっており、投資に対するリターンを得るのも難しくなっている。
		百貨店（婦人服）	販売量の動き	・月前半は残暑で秋物衣料や雑貨が大不振となっている。気温が下がり始めた中盤以降も急激な回復はなく、政治や経済、外交関係の不安もあり、消費意欲は低調なままとなっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・今月も10日ごろまでは普通に売れていたが、12日ごろからは客の買物が買得品や特売品に集中しているほか、買い回りが多くなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・残暑の影響が強く、季節衣料が大苦戦している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客1人当たりの購入単価は少し上がっているものの、急に涼しくなったことでアイスクリームや飲料水の購入は減少している。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・今月も猛暑が続き、パンや弁当の売上が落ち込んでいる。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	販売量の動き	・秋冬物スーツのオーダーが非常に少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		任関連専門店 (店長)	販売量の動き	・サマーセールシーズンの終わりが近づき、一気に受注が減っている。本来は定価品の販売で利益を上げる時期であるが、逆に悪化するという状況が続いている。価格競争が激化し、低価格志向もすっかり根付いているため、脱却は非常に困難である。
		その他専門店 〔医薬品〕(経営者)	お客様の様子	・前年の新型インフルエンザの流行を教訓に、学校などでは消毒液やマスクを常備するための購入が増えている。そのほかの商品は、酷暑で季節商品の購入が増えたこともあり、慎重な買物姿勢となっている。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・明確な理由は分からないが、前月よりも売上、来客数が確実に減少している。例年の動きとは異なるため、スタッフ一同とまどっている。ただし、出入りの業者からは、どの店も同じように落ち込んでいるとの声が聞かれる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・たばこのまとめ買いなどで出費が重なり、外食の機会が減ったのが、男性の客足が減っている。
		一般レストラン (店員)	来客数の動き	・ランチに1人で来店する客が、以前に比べると少なくなっている。
		一般レストラン (経理担当)	単価の動き	・猛暑の影響で来客数は前年以上となっているが、客単価は伸びていない。
		観光型ホテル (経営者)	単価の動き	・今月から団体客の増えるシーズンに入ったが、旅行代理店からの要求は料金の値下げに関するものが大半である。また、今年はシルバーウィークがなかったため、月後半の入込客数が伸びていない。
		都市型ホテル (支配人)	販売量の動き	・企業業績、個人消費共に、3か月前よりも悪化している。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊は当施設を含む広い地域で客が減少し、全ランクの施設で値下げ販売が激しくなっている。特にビジネス利用は大きく減少しているが、値下げをしても受注は増えていない。宴会は特殊な会合の受注で前年を上回ったものの、既存客ベースでは大幅な減少が続いている。
		都市型ホテル (総務担当)	単価の動き	・客室稼働率はほぼ前年並みであるが、客単価は前年を1割強下回っている。また、レストラン部門でも平均客単価は前年を下回っている。
		都市型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・宿泊は高い稼働率が続いているが、客室単価の値下げが常態化しており、売上は前年並みにとどまっている。一般宴会も、悪かった前年よりは良くなっているが、企業による自粛で予約は例年以上に厳しい状態が続いている。食堂に関しても、月前半に来客数が激減し、月後半にもカバーできない状態となっている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・円高メリットがあるにもかかわらず、今月は海外旅行の受付が全く伸びず、前年を大きく下回っている。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・タクシーで市内や郊外を回っているが、特に郊外は閑散としており、繁華街だけがにぎわっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・盆過ぎ以降、客足の減少が顕著となっている。夜になっても電車から降りてくる人の数、タクシーに乗る人の数が減っているほか、昼も同じ傾向がみられる。
		通信会社(経営者)	単価の動き	・携帯電話の大手販売業者の前期決算が良かったため、通信会社は今期に入って販売手数料を抑えてきている。その影響が販売粗利の悪化という形で徐々に出てきている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・猛暑により、客の間で外出を避ける傾向が強まっている。
		美容室(店長)	来客数の動き	・客の動きが悪く、今月の売上は前年比で2割減少している。
		その他サービス 〔学習塾〕(経営者)	来客数の動き	・生徒数が若干減少傾向で推移している。
		住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・不動産需要がまた落ち込んできている。特に、新築物件が供給過多となり、価格競争が始まりつつある。
		悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子
商店街(代表者)	販売量の動き		・猛暑のため来客数が減少し、売上に大きな影響が出ている。	
一般小売店〔菓子〕 (経営企画担当)	販売量の動き		・6月と9月の売上前年比を上位5店舗の平均で見ると、6月が91.0%で、9月が84.3%となっている。状況は非常に悪く、過去にない落ち込み方となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・厳しい残暑で、衣料品の売上前年比はボリュームブランドから高級ブランドまで2けた減となっている。気温の急低下で23日からは前年の売上を上回っているが、中旬までの不振をカバーできず、月全体では1けた台のマイナスとなっている。	
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・消費者の節約志向が2、3か月前よりも更に強まっている。買上点数、来客数は維持できているが、1品単価の下落が激しい。必要な物と特売品だけを買う動きが目立っている。	
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・8、9月は猛暑で秋物商品が全く売れず、夏物の特売でも単価の安い商品しか売れていない。売上は前年に比べて4割ほど悪化している。	
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・残暑が厳しく、なかなか秋物商戦がスタートできなかったが、ここへきてようやく動き出している。	
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴い、来客数は減少している。ある程度予測はしていたが、それ以上に悪化している。	
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了による悪化は予想どおりで、受注台数は全体で前年の46%と大幅減となっている。	
		高級レストラン（支配人）	販売量の動き	・来客数は若干増えているものの例年ほどの動きはみられず、客単価、販売量は悪化している。	
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・集客のために前月後半から様々な販促を行っているが、客が全く動かない。急に動きの止まった感がある。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・秋らしい気候になってからは、予想どおり乗客が激減している。企業の利用も相変わらず少ない。	
		ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・前年のシルバーウィークは大変盛り上がったが、今年の連休は記録的な猛暑の影響もあり、厳しい結果となっている。	
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・成約率が極端に落ち込んでいる。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-	
		やや良くなっている	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・エコカー補助金の終了に伴う駆け込み需要で、ハイブリッドカー向け樹脂の販売量が好調に推移している。
			プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・雰囲気はあまり明るくなく、前月比では横ばいと本格的に良くなっているわけではないが、3か月前に比べると景気は良くなっている。
			電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先からの発注量が、少しであるが増えている。
			広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・製造業と、それに関わる派遣会社の広告が増えてきている。
			その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・非常に暑い日が続いたため、タオル製品の売行きが良い。景気は低迷しているものの、必需品を購入する動きは鈍っていない。
	変わらない		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・猛暑で家庭での火を使った調理が減り、ソースの出荷量が激減したため、売上は低調となっている。また、円高で輸入原料の価格が下がると期待していたが、異常気象で収穫量が減り、逆に値上げの話が出てきている。
			食料品製造業（経理担当）	それ以外	・例年9月に入ると販売量が上向くが、今年は酷暑が長引いたため、売上が前年の水準を20%下回っている。
			パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	競争相手の様子	・同業者の組合で集まっても、各社からは全体的に忙しいという声しか聞かれない。
			化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全般的には良くなっているが、まだ悪化が続いている得意先もある。時代の変化にいかに対応できているかにより、企業ごとの格差が広がつつある。
			金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格は比較的安定しているが、受注価格は相変わらず厳しく、採算割れの案件が増えてきている。
			金属製品製造業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上の低迷に加え、材料価格が上昇、販売価格は低下するなど、ダブルパンチとなっている。
			一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社には原発関連の顧客が多いが、相変わらず設備投資は活発である。3か月前に比べても活発な状況が続いている。
			電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・大手企業は新製品開発にも非常に前向きで、厳しい状況のなかでも予算を何とか確保している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・世界的に電子書籍関連の動きが増えているため、今は好調に推移している。		
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・売上全体では前年比で5%ほどの伸びが続いている。徐々にマンションの建設が増えつつあるが、内装やクーラーの工事は来年度で、照明などはその後の取付作業となるため、今期の売上にはつながらない。		
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注価格や販売価格の動き	・薄型テレビやエアコンなどの動きは堅調であるが、1品単価が下落するなど上向きとは言い難い状況である。		
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量などの全体的な状況に大きな変化はない。		
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量は増えておらず、景気が上向いている感はない。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間関係の受注量は増えつつあるが、価格競争は相変わらず厳しい。一方、官庁関係の工事は減少が続いている。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの問い合わせは増えているが、販売単価が下がりつつあるため、全体的な売上は伸びていない。		
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・1件当たりの受注価格は、相変わらず低めである。		
		輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・例年は9月決算で事務機器の荷動きが良くなるが、今年は前倒しで動きがあったため、例年ほどは荷物が増えていない。		
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・読者数は何とか維持しているが、折込広告の動きが全く回復しないため、収益は前年よりも悪くなっている。		
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は広告出稿について前向きな顧客企業がほとんどない。		
		経営コンサルタント	取引先の様子	・小売業の顧客企業では不振が続いているが、飲食業やサービス業では新規出店もみられるほか、製造業でも通常の設備投資は続いている。ただし、期待したほどの売上増加にはつながっていない。		
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・APEC関連で資料作成の依頼が増えているほか、学会なども活発に開催されており、受注件数は確実に増えている。ただし、秋物フェアなどの販促物については、残暑の影響で動きがやや鈍い状況である。		
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先が経費削減を続けているため、受注金額は非常に厳しい水準となっている。		
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・引き合いや見積り依頼などが非常に少ない。		
		やや悪くなっている		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・綿糸価格が高騰したままであるが、受注が減少しているため販売価格に転嫁できず、厳しい状況となっている。
				繊維工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注数量が減少しているほか、販売の中心である仕事には社員が出向き、社員が足りない場合は派遣社員を利用しているため、販売コストもかさんでいる。
				出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・全体的には下降傾向の進んでいる感がある。ただし、得意先には上向いている企業が数社あり、特に格安ホテルは中国や東南アジアからの観光客をターゲットに成功している。
				化学工業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・猛暑で油脂の販売量が低下している。食品ではアイスクリームや飲料は絶対好調となった一方、菓子類やパンの売上が減少した。菓子でもゼリー類は好調であったものの、焼き菓子類は不調となったため、油脂の売行き悪化につながっている。
				金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高の影響で、海外工場では現地調達が進んでいる。
金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き			・円高やエコカー補助金の早期終了が影響しているのか、予想よりも早く売上が落ちている。		
金融業（支店長）	取引先の様子			・取引先の中小建売業者では、オープンハウスへの来場者数が減っている。以前は土日で10組程度の見学があったが、チラシを入れても反応が悪くなっている。先行き不安により、様子見の動きが非常に強まっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	悪く なっている	経営コンサルタント	それ以外	・地元の状況をみていると、様々な業種でここ1か月の間に4件の倒産が起きている。	
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・市内の貸事務所、貸店舗共に空室が増えつつあり、募集をかけても新たな入居者が決まらない。近隣の大都市で新築未入居の物件が増えている影響もあるため、近隣市と同様に半年から1年間の家賃無料サービスが必要になってきている。	
		その他サービス 〔自動車修理〕 （経営者）	受注量や販売量の動き	・顧客の数が日に日に減っている感がある。	
雇用 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は6か月連続で前年を上回っている。これまでは正社員求人以外の増加が中心であったが、直近では正社員求人も20%の大幅増となっている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で4か月連続の増加となっている。特に、エコカーや省エネ家電関連の企業で増加が続いている。	
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・日雇求人数の前年比がマイナスからプラスに転じつつある。	
	変わらない	民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・採用者数が前年比で30%程度伸びたほか、求人企業数、求人数共に3か月前よりも10%程度増えている。	
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・前月ごろから良くなると予想していたが、円高で企業の動きが慎重になっている。ただし、派遣を嫌いつつも必要だという認識は強いため、ある程度の需要はみられる。	
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・求人の前年比は緩やかに伸びているが、これは前年の7～11月に大きく減少した反動増による部分が大きい。求人の水準自体は3か月前とほぼ変わらない。	
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・中間決算月でもあり、取引先からの求人依頼は増えている。ただし、退職者の補充や、競合他社スタッフの契約終了後の補充といった依頼がほとんどで、下半期に向けた増員依頼はほとんどない。	
		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・採用が決まるまでに時間が掛かるほか、競合相手も多い。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・特に広告業界には追い風も吹いておらず、前年比で85%と悪いままである。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・とりあえず非正規社員として就職したものの、再び正社員で仕事を探す人が増えており、再離職者の数が増加している。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の内訳をみると、無業者が増えている一方、離職者が減少、在職者も増加から横ばいに転じている。雇用情勢の回復が遅れているため、離職や転職をせずに会社にとどまる傾向がある。また、パートへの求職では無業者の増加傾向が続いているなど、家計補助的な就業希望者が増えている。なお、企業は依然として正規雇用に慎重で、パート求人が大幅に増えている。	
		民間職業紹介機関（大学担当）	求人数の動き	・来年の新卒者の就職状況は悪いまま停滞している。今後の企業の採用動向次第では、危機的な状況となる。	
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・採用情報を求めて企業訪問を精力的に行っているが、求人は内定辞退の補充などが中心となっている。先行きに明るさを感じられないため、将来を見越した採用は少ない。	
		やや悪く なっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・求人広告が低迷しているというよりも、企業の動きが明らかに変わりつつある。大半の企業は人事政策による経営効率の改善を徹底しており、業務拡大に伴う人材確保は行っていない。
			職業安定所（職員）	求人数の動き	・前月から一転して、求人数が減少している。求職者も少し減少気味であるため、就職件数の減少につながっている。
			学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・新たな求人数が前年比で約15%減と厳しい状態が続いており、改善されていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	-	-	-

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店〔紙類〕（経営者）	単価の動き	・9月に入り生活にゆとりのある客層が観光に出る傾向にあり、観光客の購入単価が徐々に上昇している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・商品1個当たりの価格は低下しているが、買上点数が増加することで客単価が上昇している。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・今年は気温の高い時期が長期にわたったため夏物を求める客が増加し売上も増加した。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・今月も個人、団体共に来客数が多く売上も伸びている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・全体的に工事件数は伸びておらず、猛暑の影響で客の工事決断の動きも悪い。
	変わらない	百貨店（営業担当）	単価の動き	・9月前半は厳しい残暑で来客数は増加したものの、客単価は低いまま大幅な売上増加にはつながらなかった。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・暑い夏が終わり秋になればと期待していたが、彼岸まで真夏のような気温が続き、ほとんどのテナントが前年同月の実績を下回っている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・比較的堅調な動きをみせていた宝飾、高級婦人服が2か月連続して前年を下回っている。ファッションは多少気温の影響もあるが、高級ゾーン全体の低迷から景気好転の気配は感じられない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・9月は記録的な残暑で衣料品の秋物が前年比85%程度と厳しい状況である。ブーツの売上も前年比60%程度で特に20日まで苦戦した。一方物産展、食品、家庭用品は前年実績をクリアしている。また、20日以降は衣料品も前年を上回る日もでてきたが、全体としては前年比97%程度である。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・今月上旬は気温が高く、秋物の動きがなく夏物の買換えもなかったことから厳しい状況だったが、中旬以降気温が下がるとともにジャケットやブラウス等の単価の高い秋物商品が動くようになり、今月は当店も予算達成が見込める。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・売上は前年に近い状況だが内容は割引き及びセール拡大によるもので、残暑の影響もありプロパー売上は厳しい状況である。客の消費マインドは依然として低調で上向くことはない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事の売上は良かったが、日々の外販や売上は厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ここ半年以上客単価が前年比96～98%で前年を下回る状況で推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前月までに比べ来客数は回復傾向にあるが、野菜高騰などの影響で買上点数の伸長が困難で客単価が上昇せず売上確保が厳しい状況である。
		スーパー（開発担当）	販売量の動き	・野菜等生鮮関係の単価の上昇で買上点数は前年を下回っているものの売上金額は水準を維持している。
コンビニ（エリア担当）		来客数の動き	・今月はたばこの値上げの影響で売上は非常に伸びているが、来客数は前年並みで良い状況とはなっていない。	
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・月の後半は涼しくなったが、前半の残暑による売上不振をカバーできてはいない。ただ、気候だけではなく景気が悪いという世論が買い控えを助長していることが懸念される。		
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・たばこの買いだめは多いが、客はそのことで他の商品の購入をセーブしている。		
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・今月前半は残暑の影響で秋物の動きがなかったが、中旬から少しずつ動きが出ている。しかし、政治の状況等もあり客の購買意欲の高まりには至っていない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (販売促進担当)	単価の動き	・今月は早めにセールを開催したことで来客数、売上共に好調だったが、依然として客単価は低く、客は低価格帯への関心が強く、買得品をよく見極めており、価値ある商品の値下げには反応が良い。
		衣料品専門店 (地域ブロック長)	単価の動き	・競争激化による1品当たりの単価の低下傾向は続いているが、販売個数の増加が見込めていない。客は必要な分だけ購入している。
		家電量販店(店長)	単価の動き	・単価の低下が止まらない。特にテレビの価格は年々低下しており、今後12月に向け更に低下する。
		その他専門店 [時計](経営者)	来客数の動き	・不景気の影響もあるが、今月中旬から当地は農繁期に入ると共に、休日は運動会などのイベントがあり商店街への客が少なかったことから売上が減少している。また、観光客も昨年同時期より減少している。
		その他専門店 [和菓子](営業担当)	来客数の動き	・昨年9月の大型連休のような大幅な増加要素がなかった。
		観光型ホテル (支配人)	販売量の動き	・9月は月末に大型団体の連泊があり全体としては前年並みの売上が確保できたが、料飲部門はすべての部門で、前年を下回った。余分な出費は見込めない状況である。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・宿泊客数はやや増加傾向で伸びているが、料飲客数が減少しており全体として大きく変わっていない。
		都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・ホテル全体では7～8月と前年売上を上回ったが、レストランは減少しており個人消費の厳しさがうかがえる。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宴会や宿泊は前年と比較して横ばいであり、来客数、売上ともに変化がない。
		タクシー運転手 タクシー運転手	お客様の様子 販売量の動き	・夜飲みに出る客数が回復していない。 ・8月は人も多く景気も上向くかと思われたが、9月は「第25回国民文化祭・おかやま2010」関連の客が目立つくらいで落ち着いてきた。ただ1人当たりの売上は前年比10%増が続いており総売上は前年並みとなっている。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・商品の動きが全体的に鈍っている。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客のシステム構築意欲がなく、経費節減に係る依頼が多い。
		通信会社(広報担当)	販売量の動き	・8月の純増数は昨年12月以降の10万以上の水準を継続し堅調に推移している。販売は前月水準には届かなかったが、モバイルWi-Fiルータを中心としてデータ通信端末の販売が好調に推移した。競合他社のスマートフォンの影響で他社流出に歯止めがかけられず、MNP市場では継続して苦しい状況で推移している。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・売上金額及び来客数ともに横ばいである。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・収入の減少で消費マインドへの悪影響が懸念される。
		設計事務所(経営者)	単価の動き	・受注価格が低下し続けており、価格の単価上昇が全く望めない。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・戸建て新築住宅の設計依頼がなくなって1年が過ぎる。その間、住宅版エコポイント制度が始まっているが、好転の兆しはみられない。個人消費の落ち込みの影響もあるが、先行きが全くよめない。
		住宅販売会社 (販売担当)	来客数の動き	・売出イベントを実施しても来客数が計画の半数にも達しない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・季節的な要因で来客数が減少している。特に昼時の客単価や夕方の来店客数が顕著である。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・株価の下落、円高による価格低下への懸念等の影響で買い控えが表面化している。
		一般小売店 [茶](経営者)	お客様の様子	・経済が冷えきっており、どこも売上を上げることに必死の状態である。当商店街でも「天神市」があり、人出はあるものの売上につながらず、しらけた感じが漂っている。
		一般小売店[酒店] (経営者)	お客様の様子	・運動会の打ち上げ等で飲食店では人の動きもあったが全般的には閑散とした状況である。たばこの値上げに伴う買い置き需要での売上の増加はあるが、中旬までは厳しい残暑で軽い食事が目立ち売上が減少している。
		一般小売店[酒店] (経営者)	販売量の動き	・依然として料飲店の販売量は伸びておらず売上が減少している店が目立つ。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	来客数の動き	・駅再開発により駅のほとんどの商業施設の退店が決まっており、数年前から全体的なりリニューアルや各店の改装ができず、ほぼ全店が毎月前年比の売上を伸ばせない状況が続いている。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月は前半残暑が非常に厳しかった。後半気温が下がったものの、客の購買意欲は上がっていない。
		百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・購買客単価は前年同月比でマイナスとなっており、特に高額商品の単価の減少が著しい。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価と共に1人当たりの買上点数がかなり減少している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客から「車やテレビを購入した」との声をよく聞くようになった。エコカー減税、エコポイント制度等消費促進の効果はあったが、我々の業界では恩恵がいればかりかかえてマイナス面が目立っている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・近くに新たな激安店の進出があったことから、売上が減少している。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・競合他社の低価格競争が続いており、一部の商品については価格を合わせるため、一点単価、客単価ともに前年を下回るケースが続いている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の買上点数及び売上単価がともに減少している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・秋物も夏物最終セールも動いていないまま秋本番を迎えている。
		乗用車販売店（副店長）	来客数の動き	・エコカー購入補助金が終了する前後を比較すると来客数は半分以下に減少している。
		自動車備品販売店（経営企画担当）	販売量の動き	・販売単価下落の傾向は継続しているものの販売数で補ってきたが、ここにきて販売数も厳しい状況となっている。猛暑やエコカー購入補助金等で恩恵を受けるのも当業界では少ない。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・残暑が厳しく秋物の展示会では来客数も少なく売上も低調だった。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・昨年に比べ特に団体等の予約状況が悪くなっている。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・猛暑で外食の単価の低下が目立っている。また、通常オフセールでの償却が減少傾向にある。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・20年以上営業していた近隣の大型飲食店本社が2店閉店しており、依然として厳しい状況が続いている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少及び主に中小企業の社長との話から状況は厳しい。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	お客様の様子	・飲食を中心に単価が低下しており、客の買い控えも進んでいる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・例年実績のある時期での予約が減少している。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・売上増加のため最も重要な一般宴会の需要に伸びがなく苦戦している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・以前は1日の運行で27回くらいの乗車があったが、最近では20回程度となっており、乗車単価も悪くなっている。
		テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・来館者数の動向が減少している。
		テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・8～9月の猛暑の影響で、屋外の観光地は敬遠される傾向がみられ来客数が大きく落ち込んでいる。
		ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・暑い日が続く来場者が減少していることで、少ない客の取り合いとなり更に単価が低下している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の購買意欲が薄らいでおり、来場者数も減少傾向にあるなか、来場者も一層慎重に構えている。
		住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・来場する客の様子から景気が低迷している。
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候も過ごしやすくなり来客数を期待していたが、真夏以上に人出が悪く、売上金額も減少している。
		商店街（代表者）	単価の動き	・猛暑の影響で夏物の動きが出ると思われたが結果は非常に悪かった。暑すぎて消費者の購買意欲が伸びないということだが、根本には買い控えがあり、今の経済状況からいかに財布のひもをしめるかということに苦労している様子がありありとうかがえる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の8月に比べ9月に入って来客数が伸びていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑もあるが政治経済すべての面で不安定な時期にあることが影響している。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・猛暑の影響もあり1品あたりの単価が上昇しているが、客は必要最低限のものしか購入せず、全体の販売数量が減少している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・エコカー購入補助金終了後の販売量の動きは前年比50%で推移している。
		乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・新車販売台数が激減しており、エコカー購入補助金終了とともに前年を50%下回る台数で推移している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金終了が大きく影響している。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・来客数、客単価共に減少しており非常に悪い状況が続いている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・宴会コースの単価が大幅に低下すると共に、毎月5%ずつ来客数が減少している。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・9月中旬まで残暑が厳しく、客が出控えたことで来園者数が減少した。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・9月は残暑の影響もあるが来客数は非常に落ち込んでいる。経済的な問題も多く含まれているが、今のデフレ状況下ではこれから先のことが懸念される。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客からは景気が悪くなり更に悪循環のなかで生活していることをよく耳にする。このままでは景気浮揚につながる要素は見当たらない。
		企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）
やや良くなっている	農林水産業（従業者）		それ以外	・8月の状況を3か月前の5月と比較すると、水揚数量は940トン、水揚金額は1億8,600万円の増加である。その要因は大・中型巻き網、イカ釣り船の増加によるものである。また、前年同月と比較すると、水揚数量は399トン（前年同月比130.6%）、水揚金額は1億800万円（前年同月126.5%）の増加である。その要因は大・中型巻き網、イカ釣り船の増加によるものである。
	食料品製造業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・予定外のOEM商品が増え、売上は予想より若干増加している。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）		受注量や販売量の動き	・生産量自体の大きな増加はないが、耐火物を工場加工し納入する製品は好調な受注である。なお、仕事量の増加は社内応援体制でカバーし、閑散部署も残業体制に入っている。
	鉄鋼業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・足元は春先に比べ良くなっているが、10月以降の先取りのような部分もあり、実態は見かけほど良くなっていない。
	建設業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・起工式が頻繁にあり、現場担当者の稼働率が上がっている。
	不動産業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・来店数、成約件数が増加している。
	変わらない		食料品製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き
木材木製品製造業（経理担当）			受注量や販売量の動き	・住宅着工は極めて緩やかな回復状態だがデフレも継続している。
化学工業（総務担当）			受注量や販売量の動き	・内需は依然として回復しておらず、工場はフル稼働となっていない。
鉄鋼業（総務担当）			受注量や販売量の動き	・エレクトロニクス関連材料に一部調整が開始受注が低調となっており、年末まで調整が続く。
非鉄金属製造業（経理担当）			受注量や販売量の動き	・全体的には特段の方向性はみられないが、エコカー関連など分野によっては急に冷え込んでいるものもある。
金属製品製造業（総務担当）			受注価格や販売価格の動き	・受注量、受注価格等大きな変化はなく、引き続き厳しい状況が続いている。生産量は生産能力の60%程度にとどまっている。
一般機械器具製造業（経営企画担当）			受注量や販売量の動き	・自社製品の売上について、国内市場では回復の兆しがみえ始めてきたが、依然として海外市場は冷え込みが厳しく、売上不振の状態が続いている。
電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注はあるがコスト面で合わない等様々な問題があり、受注動向を注視している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（統括）	受注量や販売量の動き	・9月は鉄鋼製品の海外輸出が増加しており非常に好調に推移しているが、他の輸送部門は依然として停滞ぎみである。
		輸送業（運送担当）	取引先の様子	・依然として運送業者からの発注量が横ばいの状態である。
		通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・今年度の設備投資にかかわる客からの引き合いは継続している。価格面については依然として厳しい状況だが先月とほぼ同様の件数で推移している。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・部品サプライヤーの国内生産は2直残業体制で操業している。売上高、利益とも昨年を上回る水準で推移している。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・大手企業にとどまらず、中堅・中小企業も従来以上の低金利で資金調達できる商品が整ってきているが、企業の資金調達意欲は乏しい。中小企業の経営者と話す機会があるが、経済が低迷するなか、投資に消極的であり資金繰りを維持するための資金調達にとどまっている。ここ3か月で大きな変動はみられない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・猛暑の影響で、屋外の作業の多い建設業では安全面での配慮から個人の長時間作業を制限していることから、予想以上にコストがかかっている。また、サービス業も人的配備のやりくりには通常以上に手間がかかっている。
	やや悪くなっている	化学工業（経営者）	取引先の様子	・取引先が生産計画を下方修正する動きが散見される。
		その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず低価格化が継続しており、高付加価値商品の売行きが悪い。一方で数量的には徐々に伸びてきている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年この時期はある程度の作業量が見込めるが、今年は厳しい状況が続いていることから、中小企業緊急雇用安定助成金制度等を利用するとともに、出費を抑える努力を行っている。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・サービス業における求人募集が引き続き好調で、製造関係への従業員の派遣業からの募集や道路工事関係の交通誘導員の募集がある。
		やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・作業職の短期派遣需要は業界によって差はあるものの相変わらずおう盛で、各事業所でも多くの受注残を抱えている状況であるが、短期的な需要のため、先行きは相変わらず不透明である。また、求職者の派遣離れ傾向も依然見受けられる。一方人材紹介事業に関しては、従業員50名以下の規模の企業からの需要も増加している。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・2012年度（再来年春4月入社）の新卒採用計画が各社スタートしているなかで、「新卒採用は行おうが採用予定人数を設けず、良い人材がいれば採用する」というスタンスの企業が多く、質重視の慎重で堅実な採用活動を行っていかうという企業の考えがうかがえる。無理をして目標の人数まで採用することを控える傾向となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の新規求人数は前月比3.7%増加しており、特に製造業では求人数の回復が顕著である。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求人数の動き	・求人情報誌を出している弊社では一時的ではあるが求人数が昨年に比べ150%を上回っている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（支社長）	求人数の動き	・求人数は前月と大きな変化はないが、今後景気の悪化が考えられ、中途採用の求人数が減少する恐れがある。
		新聞社[求人広告]（担当者）	採用者数の動き	・企業について再来年度の就職活動を遅らせる動きも一部あり、会社の状況がつかみにくくなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・基幹産業の製造業の求人が前年同月比で9か月ぶりに減少に転じた。特にハードウェア製造業で、エコポイント制度終了を控えて生産調整に伴う求人減少がみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・補充採用より増員採用の割合が多く、特に中小企業に目立った動きがあった。しかしながら人選は非常にシビアな傾向が続いており、1つの求人情報に多数の応募がひしめくという構図は変わっておらず回復とはいえない。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-	-

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向関連	良く なっている	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度による駆け込みが相当あり、販売台数が伸びたが、一時的と判断している。	
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・残暑が続いているため、飲料を中心に販売量は伸びている。	
	やや良くなっている	コンビニ（店長）	単価の動き	・客数は前年並み、客単価は前年比プラスであることから、売上は前年を上回っている。例年9月は前月比10ポイント程度落ち込むが、前月比をも上回っている。たばこ増税前の駆け込み需要は月末に集中すると思われ、これを差し引いても9月の売上は好調である。	
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・9月上旬までは残暑が厳しく、また去年はシルバーウィークがあったため、今年是对前年でハンディがあったものの、下旬からの気温の冷え込みにより、高額秋冬商品の動きがにわかに良くなってきている。	
	変わらない		家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑による需要で、エアコン販売額は前年比190%である。また、エコポイント対象商品のテレビについても、前年より販売単価は低いにもかかわらず、前年比110%となっている。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来客数は少し増えているものの、売上にはまったくつながらない。
		商店街（代表者）	単価の動き	・最近の傾向として、価格に対する顧客の目が厳しい。	
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・残暑により、9月に入ってから夏物を探されているお客様が多く、秋物の動きが悪かった。後半から気温は下がり始めたものの、「秋物のセールはいつからしますか」との問合せが多く、定価ではなくセール待ちの傾向が続いている。	
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・厳しい残暑により、寝具は前年比で極端に低迷した。一方で、食品や服飾は催事効果もあり健闘している。全体ではあまり変わらない。	
		スーパー（店長）	お客様の様子	・たばこ増税前の駆け込み需要により売上は好調であるが、その分、10月の反動が心配される。また、残暑で引き続き夏物が堅調に推移しているが、その分秋冬物の出足が遅い。	
		スーパー（店長）	販売量の動き	・特売や安値を理由に売れる傾向が以前と比べ無い。しかしながら、秋からの新製品については、非常に動きが良い。	
		スーパー（店長）	お客様の様子	・9月はたばこ増税前の駆け込み需要により客数、売上とも前年を上回った。しかし主力である生鮮品の売上は伸びていない。	
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・猛暑により夏場の売上は堅調に推移したが、消費不況、供給過剰、デフレというファンダメンタルには解消の兆しが無い。	
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・猛暑での来客数増加により、8月は15か月ぶりに前年を上回るなど、一般品の売上が好調に推移した。しかし9月に入り、梅雨明け前の客数程度に戻っている。	
衣料品専門店（副店長）	お客様の様子	・景気がいいから服を買うのではなく、必要なときに必要な物を買うということを感じる。			
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間の使い疲れか、客足が止まっている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月以降9月中旬までは残暑もあり、飲料を中心に売上は好調に推移した。さらに野菜の価格高騰もあり、売上を後押しした。しかし9月中旬以降、競合店の出店もあり、来店客数は厳しい。たばこ増税前の駆け込み需要は、全体売上を1%程度底上げしている状況である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊客は増えていない。日帰り旅行は増えていると思われるが、全国的にも国内旅行は冷え込んでいる。また、四国は今、NHKドラマでブームにもかかわらず、松山はその影響がまだ少なく、宿泊客も伸びていない。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・9月は猛暑の影響もあり、国内旅行が例年に比べ落ち込んでいる。海外旅行は、円高の影響で比較的好調である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・瀬戸内海の小島を舞台にした瀬戸内国際芸術祭が開催中である。港の高速艇やフェリーの乗り場では、タクシーが午前中や夕方にも多少動いている。しかし一般的には、利用客は少ない。特に夜の街の客が少ないこと、近距離乗車が多いことで、売上は伸びない。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・比較的高額商品への関心が多く、堅調である。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数は前年比で下回っている。予約状況や単価も同様である。3か月程度前と比べて状況には変化が無い。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来店客数は昨年と同水準であるものの、財布のひもが固く、客単価の低下が続いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・9月の商店街通行量は、日曜、祝日では多かったものの、厳しい残暑もあり特に平日は顕著に少なかった。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・郊外型大型店の勢いが衰え、過剰店舗による競争で自然淘汰が本格的に始まっている。とは言え、中心街に客が戻って来ているわけではない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	単価の動き	・大口注文が減ってきている。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・店頭販売では、消費者が量販店やディスカウント店で購入している。業務用販売でも、消費者の財布のひもが固いせいか、外食控えの傾向がみられ、小売店としては厳しい。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・9月末ころから涼しくなったものの、商品の動きはまだ鈍い。来客数についても、少し鈍くなっている。	
	百貨店（営業担当）	それ以外	・来客数および売上高共に前年同月比で下回っている。ファッション関連商品は婦人・紳士共に秋物商品の動きが極めて少なく低調である。また、宝飾品等の高額商品の動きも鈍く、総じて低調に推移した。	
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・猛暑が続き、来客数が落ち込んでいる。買上客数も大幅に減少しており、秋物衣料の販売へ大きく影響している。	
	家電量販店（店員）	単価の動き	・性能ではなく、価格で購入機種を選択する傾向が強まっている。	
	家電量販店（営業担当）	お客様の様子	・時期的に、冷蔵庫や洗濯機が減っている。テレビについては、エコポイント制度延長の影響が濃く、価格もある程度落ち着いているため、2台目、3台目を買う客が多い。	
	乗用車販売店（役員）	お客様の様子	・エコカー購入補助金制度終了と同時に、新車購入の来客者が減少してきた。修理については変動ない。	
	都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・単価が落ちてきている。客数についても微かに減少している。一般的に9月は8月に比べて減少するとは言え、例年よりも減少幅が大きい。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べてやや悪い。単価、乗車回数とも低調である。	
	観光名所（職員）	来客数の動き	・今年のシルバーウィークは飛び石連休であったため、前年比で集客は20%近く低下している。	
競艇場（職員）	販売量の動き	・9月は、施設改善工事により開催日数が13日間と、通常の半分程度の営業日数であったため、売上は通常の30%程度にとどまった。仮に、通常通りの営業日数で割り戻したとしても、8月比で22%減少、3か月前比で22%減少、前年比で32%減少しており、顧客の消費は下降傾向といえる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所(職員)	販売量の動き	・公共事業量が減少し受注競争が激しい。特に今年度は大手業者の地方参入が顕著であり、競争に拍車をかけている。地方業者は生き残りをかけた消耗戦を継続中であり、大手業者と比べて仕事量は大幅に減少し、売上も大幅ダウンしている。地方の建設関連業界の景気は、雷雨と例えられる。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・フラット35Sの金利優遇と住宅版エコポイントの期間延長により、住宅購入計画の先延ばしがみられる。
	悪く なっている	一般小売店[書籍](営業担当)	販売量の動き	・店頭売り、外商共に前年を下回っている。特に外商の売上は悪い。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了に伴い、受注台数が大幅に減少した。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・予想はしていたが、エコカー購入補助金制度終了で来客数、販売量など、8月以前に比べ極端に悪化している。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・9月の登録届出件数については前年を大きく上回り、一見良い。しかし、エコカー購入補助金制度にかかる駆け込み需要の受注残があったためである。終了後は一転し、受注が半減している。
企業 動向 関連	良く なっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・当社の場合、店頭販売が順調で、売上はこの2、3か月順調に推移している。
		木材木製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・猛暑も去り季節要因も加わって、建築業界のほうは若干にぎやかになってきた。ただしマンション業界は低迷している。
	やや良く なっている	広告代理店(経営者)	取引先の様子	・前年比で受注量は微増している。短期間ながらもこの状態はある程度続く模様である。しかしあくまでも微増であり、予断は許されない状態にある。
		農林水産業(総務担当)	取引先の様子	・受注量に大きな変化がない。
	変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年であれば、秋の需要に向かって受注は増加する時期であるが、今年はまだその兆候がない。
		一般機械器具製造業(経理担当)	受注価格や販売価格の動き	・国内受注において、地方によっては価格競争が激しくなっている。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・相変わらず、公共事業、民間工事とも非常に少ない。特に地元の工事が少なすぎる。
		通信業(部長)	受注量や販売量の動き	・景気の先行き不透明感はず変わらず、新規投資にも慎重な姿勢が続いている。個々の商談においても、その効果が見極められないと成約に至らない。また、商品価格に対しては低価格志向が強く、他社競争も一段と激化している。
	やや悪く なっている	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・9月は猛暑の影響もあり、商品カテゴリーによっては販売量が伸びた。全体の販売量は、前年比減少する状態が続いている。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・大手電子メーカー、製薬会社からの見積、引き合いが止まっている。
		通信業(営業担当)	それ以外	・最近の周囲での話題が「円高・株安で資産目減りして、厳しい状況が続いている…」など、暗い話を中心である。
		公認会計士	競争相手の様子	・取引先の月次決算書等では、全体的に収入の部がやや減少しており、同様に利益も減少している。夏前は一時的に持ち直したかにみえたが、9月あたりから数字が悪化している企業が増えている。
	悪く なっている	建設業(総務担当)	それ以外	・近所の土木業者が自主廃業をした。公表の倒産件数は、前年比で減少傾向が続いているものの、実態は厳しいままである。公共工事の激減により、特に中小土木業者は経営が維持できなくなっている。
		輸送業(支店長)	取引先の様子	・工業製品の生産調整で輸送量は減少している。また、原料の輸入量調整により、稼動日数も減少している。
	雇用 関連	良く なっている	-	-
求人情報誌制作会社(編集者)			それ以外	・ハローワーク緊急人材育成支援事業を受託している他、愛媛労働局からの就職支援セミナーも受託し、未就職者の就職支援事業が充実している。
職業安定所(職員)		求人数の動き	・徐々に企業の求人意欲が上昇し、過去最高の求人倍率を記録した。製造業の求人が回復してきた。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	職業安定所(職員)	それ以外	・8月の月間有効求人倍率は0.55倍で、3か月前比0.04ポイント上回った。
		人材派遣会社(営業部長)	求人数の動き	・求人案件は増加傾向にある。しかし中身は産休代替や欠員補充などが多く、業務量の増加に伴うものは、まだまだ少ない。
		新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・病院関係、葬儀社、官公庁関係に依存している間は、まだ厳しい。また、カーディーラーはやはり販売が止まった様子である。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求人数が前年比増加傾向に対して、新規求職者数は前年比減少傾向であった。しかし9月はこれも増加に転じている。
		民間職業紹介機関(所長)	周辺企業の様子	・基幹産業である製造業では、業種間格差が広がっている。求人企業がある一方で、人余り傾向の企業もある。
	やや悪くなっている	学校[大学](就職担当)	求人数の動き	・求人数について、前年比では若干の減少にとどまるものの、着実に落ち込んできており、好転の兆しが無い。
	悪くなっている	-	-	-

10. 九州(地域別調査機関:(財)九州経済調査協会)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	観光旅館組合(職員)	来客数の動き	・前年9月の大型連休ほどはないが、連休以降、少しにぎわっている。
		一般小売店[鮮魚](店員)	来客数の動き	・涼しくなり、少し客足が伸びている。これから伸びると期待する。
	やや良くなっている	百貨店(営業担当)	単価の動き	・3か月前の来客数は前年比90%前半で推移していたが、今月はほぼ同100%に回復している。客単価も前年を上回り、安定して推移している。
		家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・残暑とエコポイントが追い風となり、前年比150%近い売上になっている。
		その他専門店[書籍](店長)	販売量の動き	・良い状況であるとは言い難いが、3か月前が非常に悪かったため、それと比較すると良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](支配人)	来客数の動き	・キーテナントである映画館の集客が好調であり、それに引っ張られる形で来客数が増えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・平日の利用客は少ないが、週末はイベントがあり、県外の人が増えたため、タクシーを利用する観光客が増えた。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・夏場の天候不順や口蹄疫の問題でコンペ等の動向が懸念されていたが、9月の中旬以降から少しずつ地元のコンペが入ってきている。来月から少しずつコンペ等の予約が動き出している。
		変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き
	商店街(代表者)		お客様の様子	・朝夕涼しくなってきたが、日中は依然として暑い。天候が定まらないこともあり、客の消費動向が読めない。
	商店街(代表者)		来客数の動き	・中心商店街の来街者数が減ると同時に、単価も下がっている。数か月前と比べても悪い状況がずっと続いている。大変厳しい状況である。
	商店街(代表者)		来客数の動き	・9月の前半は猛暑の影響で8月同様に、来客数が減少していたが、後半になり客足が回復傾向にある。販売額は低調した状態が続いている。
	一般小売店[青果](店長)		それ以外	・地物や県産の野菜が少なく、県外の野菜に頼っている状態である。全国的な猛暑も影響し、相場がなかなか落ち着かず、需要価格とマッチせず厳しい状態が続いている。
	百貨店(売場主任)		お客様の様子	・全体的に9月は気温が高く推移したため、特に婦人服、紳士服のカジュアル衣料の買い控えが目立った。気温が下がっても、秋物がすぐ着れなくなるのではという消費者心理が働き、消費者の購買意欲は向上せず、売上につながらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・友の会の満会金券配布が次月へ移行し、店頭売上、買上単価共に減少した。一方秋物の正価販売品のシェアは上昇している。得意客のホテル催事への来客数は増加したが、売上は今一つであった。店内催事も伸び悩み、金券発行を待つ姿勢が顕著だった。
		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・来客数は前年比100%となっているが、客単価は前年比で約98%となっている。1品単価は前年比99%、購買率も前年比99%となっている。来客数は増加しているが、それに伴って売上は上がらない。今月は15日までは動きが鈍く、15日以降は気温が下がったこともあり、衣料品が売れ出した。前半の売上は前年比95%、後半は同101%で推移しており、最終的には同98%となっている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・気候要因が大きい厳しい状況が続いている。円高の影響も出てきている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・全館の売上は前年比で3～5%の減少傾向が続いている。来客数はやや回復基調にあるものの、客単価は低下傾向にある。9月は残暑が続き、秋物商品が低迷している。初旬は前年を大きく下回ったものの、秋分の日以降は、やや回復基調となっている。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・猛暑の影響で夏物を延ばして展開していた時は、それなりの反応があった。しかし暦の上では秋となり、気分的に夏物商品の買い控えが起こっている。一方で秋物商品購入にはつながらず、売上が減少している。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・リーマンショック後2巡目に入り、売上の前年比の減少幅は小さくなっている。しかし、2年間で大きく売上が落ちたことを勘案すると、前年実績を超えない限り、景気が上向いたとは判断できない。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・全体的に原価が上がり、商品単価が上がっているせいか、販売量が減っている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は売場形態をディスカウント化したことで前年比110.2%で推移しているが、衣料品は夏物衣料の不振と天候の影響で同73%となっている。総じて前年比97～98%で推移している。夏物衣料がほとんど売れず、冬物衣料に期待するしかない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・猛暑で青果商品が売れている。今、青果物の相場が高いため、1品単価が上がり、売上は増えているが、それ以外は依然として厳しい状況である。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客の様子をみると、相変わらず節約志向が続いている。ただ、たばこに関しては値上げ前の買い込み需要が発生し、前年比200%以上である。衣料品は残暑が厳しいこともあり、秋物衣料の動きが非常に悪い。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・残暑の影響もあり、衣料品や住居用品の季節商材の動きが鈍い。また、客は月後半の気温の低下にもあまり反応していない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・急激な消費減退から1年経ち、低レベルで安定している。猛暑効果やたばこの増税による駆け込み需要等を除外すると前年並みか前年を下回る。
		スーパー（売場担当）	単価の動き	・特売商品のみを購入する客が多い。
		スーパー（業務担当）	お客様の様子	・下旬に気温が下がっても衣料品、生活用品共に秋物需要が出てこない。例年みられる正価販売品の動きもほとんどない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・残暑が長引き、飲料やアイス等の売上が上がる反面、おでんや肉まん等の秋冬用商品の売行きが悪く、思うようにいかない。10月1日からのたばこの増税に伴い、値上げ前の駆け込み需要で、売上は上昇し、総じて前年を上回っている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	それ以外	・たばこの駆け込み需要で売上は伸びてはいるが、来月以降はたばこの需要がなくなる分、客の購買単価並びに購買数が落ちるので、この先最低でも3か月は売上が伸び悩む。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・残暑の影響で客足は少なく、売上は上がらない。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・残暑の影響で9月前半は秋物がさっぱり売れなかった。売上は前年比60%で推移し、一時はどうなるかと心配したが、月後半になり、気温が下がると秋物が一気に動き出した。地元球団の優勝セールもあり、最終は前年並みの売上となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・9月7日にエコカー購入補助金制度が終わった途端、客の来店がなくなった。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車販売業はこの6か月間、エコカー購入補助金制度の駆け込み需要があり、前年と比べてかなり販売量が増えた。しかし今月早々にエコカー購入補助金制度の予算に達し、補助金が打ち切れ、販売量に陰りがみえ始めている。
		その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	販売量の動き	・今年は例年のない猛暑続きで、コーヒー関連業界は売上が伸びない。実際、商品開発に努力をしている店は、多少動きが良いが、例年と比べるとコーヒーの動きが悪くなっている。
		その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・9月は3連休及び飛び石連休があり、観光客等による販売量の増加を期待したが、燃料油の販売数量は前年同期と比べても、ほぼ同数量であった。ただ、客からは高速道路の混雑状況は通常の土日より混雑していたとの話が聞かれた。
		その他小売の動向を把握できる者【土産卸売】（従業員）	販売量の動き	・前年は9月に大型連休があったが、今年はないため売上が落ちている。また売上単価も落ちているので、売上の増加は見込めない。同業他社も同じである。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数はそれほど変化がなく、集客ができない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は相変わらず低迷しているものの、今月は客単価が高く、若干ながら売上に貢献している。
		観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・一般宴会が過去最低の数字となっている。特に会議、セミナー等の数が激減している。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ホテル内全部門で単価の下落が止まらない。販売数で目標をクリアしようとしているが、市場規模が小さいこともあり伸び悩んでいる。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・前年9月の大型連休と比べると今年は飛び石連休となっており、動きが鈍くなっている。また、大きな団体の動きが悪くなっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行の動きが少し良くなっている。特にヨーロッパやアメリカ方面の旅行が増えている。また、円高の影響で団体の海外旅行が伸びている。
		旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・予約状況が良くなく、営業についても先行き不透明感がぬぐえない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・とにかく乗車率が悪い。日中は客の出が悪く、繁華街にもほとんど人がいない。夜は壊滅状態である。
		通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りが厳しいままで景気の変化が感じられない。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・口蹄疫問題が終息して県民が頑張ろうと立ち上がっているが、依然景気回復には至っていない。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今月も記録的な猛暑が月後半まで続き、客足は停滞したままであった。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・3か月前の6月の美容室は良い時期ではなく、9月も良い状況ではない。不景気は続いている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・成人式の予約が入ってくる時期であるが、景気が悪いせいか例年より予約数が少ない。
		音楽教室	お客様の様子	・9月から新規生徒募集が始まっているが、去年より参加者が少ない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・宅建業、不動産の仲介において、預かる物件数が増えているが、実際購入希望客が少ないため、バランスがとれてない。売りたい人は多いが、買いたい人は少なく、お金が動いていない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者【住宅情報誌】（経営者）	販売量の動き	・不動産の購入や建築需要がなく、住宅版エコポイントの効果もあまりない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・宮崎は口蹄疫の影響で依然、景気がかなり落ち込んでいる。客の買い控え傾向は続いており、商品が動かない状況である。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・土曜日、日曜日の商店街への来街者数の減少が著しく、来店客も先行き不安から購買意欲がない。
		一般小売店【茶】（販売・事務）	販売量の動き	・9月に入っても真夏のように暑い日が続き、相変わらず来客が少ない。例年の販売量に期待し、仕入れをしているが、外販の注文も落ち込んでいるため、在庫を抱えている状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・9月上旬が非常に暑く、客の動きが鈍かった。高額品が動きつつあるが、中間層のベクトルが下を向いているのを、カバーしきれない。特に中間層のファッションに対する欲求がかなり低下している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・野菜の価格高騰により、販売量が落ちている。運動会用のお弁当材料等も売れていない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・残暑が長引き、客の来店時間が午前中と夕方に集中しており、店内での滞留時間も減っている。競合店のチラシ、あるいは近くのスーパーの買得商品を求めて買い回りする傾向が強まっている。ワンストップショッピングでの買物点数が減っている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・デフレ傾向や同業種間の競争激化に加え、可処分所得の減少による販売量の低下に歯止めがかからない。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・毎月継続して3、4割引の協力販売等を実施しているが、前年比3%ダウンをなかなか埋めることができない。消費者の財布のひもは以前より固くなっている。出荷される商品量が非常に少なくなっている。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・景気の悪化に加え、酷暑の影響が非常に大きく、秋物の動きが全くみられない。
		衣料品専門店（取締役）	販売量の動き	・9月前半は残暑が続き、秋物商品の立ち上がりが非常に悪かった。春夏セール品の在庫を売りながら、薄手の秋物商品を立ち上げたが、8月ほど売れなかった。またセール品では利幅がなく、厳しい状況である。今年に入って一番厳しかった。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度の打ち切りのため、9月中旬以降の売上台数が減少した。
		自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・エコカー購入補助金制度が終了し、売上が徐々に落ちている。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・毎月行なっているキャンペーンの動向が今年に入り少しずつ回復しているが、今月は今年に入って最低の数字だった。前年は初夏から店舗での売出しを行なったが、今年には店舗での売出しをしなかったせい良くない。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・今月は売上が前年比1～2割落ちている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今年の夏は異常に暑く、外出を控えている人が多く、タクシーの動きも悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の飲み屋の動きが非常に悪く、閑古鳥が鳴いている状況である。
		通信会社（業務担当）	単価の動き	・携帯電話本体の格安商品が少なく、高機能ではあるが高単価の商品ばかりで客の購買につながらず、販売量が落ちている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・今夏の猛暑で外出を控えている人が多く、消費動向に影響を与えている。この暑さでクーラー等の家電製品の売上は良好である。なお、地元の景気動向は全体に低調に推移している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・各種施策や商品を展開しているが、9月の3連休を除いて個人客、団体客共に宿泊部門もゴルフ部門も伸び悩んでいる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	お客様の様子	・8～9月にかけての猛暑、残暑により、外出のサービスを延期またはキャンセルする客が増加した。
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・客はとにかく物を買わない。試着もしないし、全く動きがない。心理的に非常に悪い方向に動いている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・客の受注状況は非常に厳しい。生花の購入は控えるなら控えても良い商品であるため、景気が良くないと動きが鈍くなる。もともと繁盛店ではないにもかかわらず、売上は更に減っている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・暑さが続き秋物がほとんど売れない。少しでも涼しいと客も手に取る気になるが、見に来る客もいない。
		乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・自動車販売はエコカー購入補助金制度が9月上旬に打ち切りとなり、その後の受注は前年の半分弱である。また客の動きが今までと全く違い、来場も少なくなっている。以前から予想されていたことではあるが、厳しい状況となっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度が9月7日で終了し、それ以降、新車受注が激減している。来店客がほとんどなく、ショールームに人影がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月は8月同様、客の動きが鈍かった。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・口蹄疫の影響で人はあまり外食をしなくなり、観光や人との交流も少なくなっている。周辺の居酒屋でも金、土曜日に若い人が多いのみである。それ以外の人はあまり外に出なくなっている。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	それ以外	・季節要因ではあるが、鹿児島は一段と暑い夏で、ビアガーデンは少しは集客していたかもしれないが、当店は今までにない不況であった。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・口蹄疫も終息宣言が出て、各種様々なイベントが始まり、取引先も少しずつ従来の形に戻りつつある。彼岸が過ぎて本来の季節感が戻り、スーパー向け、居酒屋向けの消費が伸び始めている。大手加工メーカーも原料の引き合いが少しずつ入り始めている。ただ価格は円高等の影響もあり、厳しい状況となっており、採算的には苦しい。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・上半期は、最終月で全体の80%の発注があった。年度末までいっばいの工事量があるわけではないが、3か月前と比べればどの業者もある程度の工事量の確保ができています。
		その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・先月に引き続き、設備投資の大口案件の受注が好調であり、特に半導体関連及び医療機関の大口契約があり、前年同期の実績を大きく上回った。
	変わらない	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・畜産物の価格が低迷しており、その中でも牛の価格が非常に下がっている。景気が回復しない限り、今の状態のままである。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節がら商品の動きは悪くないが、天候不順の影響があり、原料が潤沢に入荷されない。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・中国への不安のため国内工場への受注が少し出てきたが、本来円高の影響もあり、海外生産をしたいのが取引先の実情である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事や民間の商業施設等すべてに一服感がある。円高の影響や政治の指導力等を踏まえ様子見の状況である。今年の前半からの緩やかな景気回復基調があったが、今月は感じられない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	電子部品関連は一般的に良い状況が続いている。良かったり悪かったりと一進一退の状況であるが、良い方向に進んでいる。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は少ない状況にある。コスト競争が激しく、採算割れの仕事を受注することもある。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月半ば以降、以前の見積分が少しずつ動き出した。
		その他製造業（産業廃物処理業）	受注量や販売量の動き	・製造業の生産レベルが回復基調にあるなかで、受注量は徐々にではあるが回復しているものの、製造能力が十分に発揮されていないこともあり、前年の受注量には達していない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の動きはあまり良くない。特に秋物衣料品についてはあまり出荷されていない。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・好転の兆しはみられず、中国問題など課題が山積みの中、景気回復は望めない状況にある。
		金融業（営業）	取引先の様子	・資金繰りが一息つく水準で落ち着いている。円高やエコポイントの関係で悪化しているとの声が聞かれるが、取引先の製造業の受注状況は、落ち込んでいない。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先に行った円高調査によると、現時点での取引先の影響は軽微との回答が多いことから、現時点での方向性として変わらないと判断している。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・通常の資金需要に対応する貸出金がほとんどなかった。現状の資金繰りを楽にするための資金の折り返しの融資や条件変更の申し出もある一方、本来の必要な資金の申込は依然多くはみられない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・受注量に関して、全く増えないという状況が続いている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況をヒアリングすると、悪くもないが良くもなっていないという回答が多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・取引先の様子が大変厳しくなっている。一番問題なのは受注価格がなかなか決まらないことである。仕事量は増えているが、受注価格が低単価であることから結果としては悪くなっている。	
		金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・急速な円高や株価の低迷により、輸出産業を中心とした企業業績が鈍化傾向にある。	
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業、個人事業主の倒産が取引先に多くみられる。特に建設業関係の倒産が目立ち始めている。資金繰りがタイトで借入金元金返済据置き要望も目立つ。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・残暑が非常に厳しかった影響で秋物用品の販売がかなり不振であったと聞く。車のエコカー購入補助金制度も終わり、若干厳しい局面にきている。	
	悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は猛暑で消費者や商品の動きが悪かったが、9月も引き続き受注や単価においても厳しい状況である。商品の動きが鈍く、消費者への販売も動きが非常に悪い。9月の後半は通常の商品がいくらかでも動き出すが、今年は大変厳しい。	
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月は通常上半期の決算で受注量が伸びるはずだが、今月は例年に比べて荷動きが悪く、通常の営業月とほぼ変わらない。以前であれば月末の押し込みということで、問屋もある程度在庫を抱えていたが、今は荷主の営業力も落ちており、在庫を抱えることなく、必要な分だけ在庫する荷主が増えている。	
		経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・清酒や焼酎等いずれもとにかく売れない。清算在庫も多くなり資金繰りも大変である。このまま売れないと倒産もやむを得ない。	
		その他サービス業【設計事務所】（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の委託する業務は、発注量が激減しているため、経営が立ち行かなくなる建設コンサルタントが発生している。倒産や借金を重ねている業者も見受けられる。福祉系のコンサルタントは、入札時に低価格競争が激しく、安い金額で受託しており、他のコンサルの存続にも影響を与える恐れがある。	
		-	-	-	-
		-	-	-	-
雇用関連	良く なっている	-	-	-	
		-	-	-	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年比22.1%増と改善がみられる。工場増設等いくつかの企業からの求人により大幅な増加となっている。しかし求人意欲の高まりは、全体的なものとはまでは言えない状況である。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・3か月前との比較では、新規求人数、有効求人数共に増加しており、新規求職者数、有効求職者数共に減少となっている。企業の求人活動は3か月前より活発になっている。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として、人手を増やし業務に対応する企業は少ない。今いる人員で乗り越える企業が多く、状況は前と変わらない。注文がある企業も決して増員ではない。	
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・イベント系人材派遣部門の求人依頼が復活している。前年は中止したキャンペーンを今年は開催するなど、動きが出ている。しかし、予算は変わらず縮小傾向で売上に大きな加算はない。	
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・例年9月は求人件数が増加し、今月も前年並みで推移している。3か月前と比較して大きな変化はなかった。	
		新聞社【求人広告】	求人数の動き	・求人数の動きは依然鈍く、低迷を続けている。	
		新聞社【求人広告】（担当者）	求人数の動き	・求人数は前年を上回っているが、この数か月では大きな変化はみられない。福祉、介護分野の求人が活発である。	
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・4月以降、新規求人はパート、派遣求人の押上げを受けて前年同月を上回り増加傾向にあるが、正社員求人はさほど変化がみられない。求職者では、雇用保険受給者はかなり減少しているが、パートの求職者増により新規求職者は増加している。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数は3,312人で前年比11.5%の増加となっており、有効求人数も8,670人と同19.5%増加となっている。		
職業安定所（職員）		周辺企業の様子	・求人数に若干の明るさがみえているものの、百貨店の売上高は29か月連続で前年比減と個人消費が冷え切っている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（支店長）	それ以外	・リーマンショックからの持ち直し、頓挫した状態である。派遣需要が再び鈍化どころか減退し始めている。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・求人数は低調なままで推移している。単月で見ると前年同月比はやや増加する傾向も見受けられたが、すぐに縮小してしまい、一過性の現象であった。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・欠員求人は出ているが、増加には至らない。特に現業系の求人が少ない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・若年者就労支援事業を行っているが12万人の大卒未就労者に加え、8万人が留年、来年新卒者の50万人強に加え、20万人が労働市場にあふれている。雇用のミスマッチをなくさない限り、毎年上積みとなることが強く懸念される。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人員ニーズがあっても、先行きを見極めるための様子見が多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・ディスカウントストア等の店舗拡大による求人が目立つ。来春の九州新幹線開業で博多駅など一部地区の話題はあるが、全体を引っ張るほどではなく、その他の地区のサービス、流通が悪い。また中国情勢の懸念もあり、北部九州の景気はやや悪い。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・派遣適正化の動きが継続しており、派遣から直雇用への流れが続いている。特に、上場企業はより厳格な対応を進めている。
悪くなっている	-	-	-	

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年まで店外で開催していた衣料品催事の廃止や、物産展催事の苦戦で全館売上の前年比こそ伸びていないものの、婦人ヤングや紳士服、婦人雑貨の売場等で前年をクリアするなど、店頭の上上そのものは上向している感触も出ている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・たばこの予約売上と飲料、アイスクリーム等の売上が良くなっている。
		家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・節約に疲れたのか、少しグレードの高い商品を検討、購入する客が増えてきた。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	来客数の動き	・前年同月比で100%をクリアしそうな傾向が見られる。ここ3か月で比べても来客数が伸びている。
		観光型ホテル（マーケティング担当）	販売量の動き	・今月の稼働率は3か月前と比べ、前年比の増加幅が大きくなっている。今年は前年のように大型連休は無いが、予約受注が回復基調にあり、大きく前年を上回る稼働率となっている。
		旅行代理店（代表取締役）	競争相手の様子	・秋の旅行シーズンを迎え、円高等の影響で、特に海外への旅行者数は前年よりも伸びている。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	来客数の動き	・稼働件数が前年比で115%と好調に推移している。観光客のレンタカー利用が伸びており、沖縄の入域観光客数が増えているものと予測される。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	お客様の様子	・商品購買について、質問や対応が積極的になってきている。質問等が具体的な価格やメリット等になっている。
	変わらない	スーパー（販売企画担当）	販売量の動き	・前年との旧盆時期のずれにより今月の売上は大変厳しい状況となっている、8～9月の2か月合計で見ても大変厳しい状況が続いている。
コンビニ（経営者）		来客数の動き	・天候不順の影響がある。台風と豪雨によって来客数が減少している。	
コンビニ（エリア担当）		販売量の動き	・たばこ増税前の特需はあるが、たばこ以外の売上が前年比で3%減少している。これは、できるだけ少なく、できるだけ安く買うという傾向が続いている証拠でもある。	
衣料品専門店（経営者）		販売量の動き	・販売量は少し落ちているが、客単価が上がってきているのであまり変わっていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔楽器〕（経営者）	販売量の動き	・9月までは順調で観光客も多い。元々、前年も下がっていたので、それ以上の落ち込み感も無く、部署も縮小しているので大きな変動は無い。台風もそれ、本島にはほとんど影響が無かった。これからは、商品開発等の新しい商品を提供できる体質改善をしないと厳しい状況に対応できないかもしれない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・施設利用者数が前年並みである。ただ、前年の9月は新型インフルエンザで、前々年と比べて2割ほど落ち込んだ月である。売上は前年同月比で減少しており、沖縄観光は厳しい状況にあると言える。来園者は学生、一般団体等が中心である。
		ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・相変わらず低単価傾向である。単価が上がっていく様子は今のところ一つも見当たらない。
	やや悪くなっている	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	単価の動き	・前年に比べ全体的に来客数、単価とも5～6%落ち込んでいる。食べ飲み放題を始めた店舗は若干売上が上がっているが、少ないスタッフで原価率を下げるための努力、スピード、品質の向上、気づかいを要求され、疲れきっている。
	悪くなっている	通信会社（店長）	販売量の動き	・店舗立地上、外国人の来店、購入が半数近くを占めるが、今月は円高により消費を控えているのか、外国人向けの販売量が前月より2割ほど減少している。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や受注見込み案件が若干増えてきている。荷主は営業活動と物流を分離する「商物分離」により、販売特化を進めていると推測される。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・仕事の話が出てくるようになってきている。また同業者からも、受注に向けて交渉中との話をよく聞く。実際受注に至ったとの話もあり、業界全体としても景気回復の兆しを感じる。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共工事は前年を下回り、建設業者の受注高も振るわず、全体で前年割れである。一方、新設住宅着工数は貸家が好調で前年を上回っている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・契約件数や、金額が横ばい状態である。
		輸送業（代表者）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注時期であるが、例年のレベルよりやや良いと考えられ、弊社の受注量も順調なまま推移している。
	やや悪くなっている	コピーサービス業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・インターハイも終わり、受注のめどが立たない。
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・派遣先からの受注案件が増えてきている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・求人数において、あまり変化は無い。派遣依頼は引き続きある程度はあるが、新規の依頼が伸びない。
	やや悪くなっている			
	悪くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人の増加に加え、月間有効求職者の増加・滞留が見られる。県内における失業者の4割以上の若年失業者が安易な季節工・テレホンポインター等に従事し、資格・経験を尊重する県内中小事業所が求める率先力とはミスマッチが生じている。若年者の育成・養成等が緊急の課題であり、将来の県内経済界が憂慮される。